

第 3 回 ESD 日本ユース・コンファレンス

2016 年 10 月 22 日～ 23 日

参加者活動紹介



※本事業は、平成 28 年度日本 / ユネスコパートナーシップ事業、
ESD（持続可能な開発のための教育）に関するグローバル・アクション・プログラムを推進する事業です。

主催：文部科学省、日本ユネスコ国内委員会、公益財団法人五井平和財団
共催：岡山市、岡山 ESD 推進協議会

【第3回ESD日本ユース・コンファレンス参加者 47名】

五十音順 敬称略

- 1・・・青木 琢磨 稲城市立城山小学校 教諭(ESD推進委員)
- 2・・・新宮 済 ・奈良市立平城小学校 教諭
・奈良ESDコンソーシアム
- 3・・・生駒 大典 岡崎市立竜南中学校 教諭(ESD教育・ユネスコスクール担当)
- 4・・・石垣 真由美 岡山市立西大寺公民館 事務嘱託
- 5・・・石川 郁香 ・(公社)日本ユネスコ協会連盟理事(柏ユネスコ協会青年理事)
・柏市立小学校 教諭
- 6・・・石川 佳子 香川県立観音寺中央高等学校 教諭
- 7・・・泉 光太郎 東洋大学文学部教育学科イブニングコース
- 8・・・江國 友哉 ・岡山市立桑田中学校 英語科 講師
・NPO法人 国際協力研究所・岡山(ICOI)正会員
- 9・・・大坪 未佳 法政大学経営学部経営戦略学科
- 10・・・尾形 望 ・長野ユネスコ協会青年部 つなっふる
・いづな学園グリーン・ヒルズ小学校 教諭
- 11・・・小口 瑛子 特定非営利活動法人 開発教育協会
- 12・・・小野瀬 悠里 江東区立八名川小学校 教諭(俳句・ユネスコ主任)
- 13・・・川合 由香 広島県立府中高等学校 教諭(地理歴史科)
- 14・・・岸本 達也 ・NPO法人いまじん 講師兼事務局員
・神戸大学大学院人文学研究科 社会動態専攻修士
- 15・・・木村 侑加 ・ガールスカウト日本連盟Stop the Violence ACTIVATE team
・大阪府公立中学校 教諭
- 16・・・小田 玲実 ・ナヒヤ基金 事務局長/中国内モンゴル担当
・酪農学園大学 国際交流サークルSukaRela 副顧問
- 17・・・小林 明日香 東京大学公共政策大学院 公共政策専攻
- 18・・・齊藤 美咲 東北芸術工科大学デザイン工学部コミュニティデザイン学科
- 19・・・櫻井 航平 東京学芸大学院教育学研究科 総合教育開発専攻
- 20・・・白井 希知 ・豊橋市立章南中学校 教諭
・汐川干潟保全実践プロジェクト該当学年職員
- 21・・・杉田 果穂 岡山大学教育学部学校教育教員養成課程特別支援教育コース
- 22・・・関 貴大 ・早稲田大学創造理工学部環境資源工学科
・学生NPO農楽塾
- 23・・・大道 加奈 岡山大学教育学部学校教育教員養成課程中学校英語専攻
- 24・・・高橋 尚也 埼玉大学大学院理工学研究科 博士前期課程

25・・・高山 千穂	・岡山大学教育学部学校教育教員養成課程特別支援教育コース ・国立吉備青少年自然の家ボランティアスタッフ「ウーリーズ」一員
26・・・瀧宮 紗央里	横浜市立幸ヶ谷小学校 教諭
27・・・谷垣 徹	・奈良教育大学 ユネスコクラブ ・奈良教育大学 学生企画活動支援事業「ESD実践勉強会」代表
28・・・長尾 健太郎	愛知県立みあい特別支援学校 教諭(ESD部主任/校務分掌)
29・・・中谷 栄作	・橋本市立あやの台小学校 教諭(ESD主任) ・和歌山県シニアリーダーズクラブHOPE 会員
30・・・中藤 寛人	岡山大学経済学部経済学科
31・・・中原 由棟	・第5回謝舞台湾活動実行委員会 運営幹部 ・大学院生
32・・・長山 愛果	岡山県立早島支援学校中学部 教諭
33・・・名取 亮介	・長野県喬木村教育委員会ICT支援員 ・長野ユネスコ協会青年部つながる
34・・・長谷川 拓海	・Wake Up Japan / Oita共同代表 ・立命館アジア太平洋大学国際経営学部
35・・・早川 有香	・東京工業大学大学院社会理工学研究科博士後期課程(日本学術振興会特別研究員) ・横浜市立大学／大正大学非常勤講師
36・・・東 瑞希	鹿児島大学大学院教育学研究科 理数・環境系コース 木材加工学研究室
37・・・藤井 新次郎	・名古屋国際中学校高等学校 教諭(理科 国際交流担当) ・名古屋市環境サポーター
38・・・牧 遼明	京都大学大学院人間・環境学研究科修士
39・・・蒔田 尚典	・十勝岳山麓ジオパーク推進協議会 事務局員 ・日本ジオパークネットワーク運営会議教育ワーキンググループリーダー
40・・・舩田 茂	福岡県立武蔵台高等学校 教諭
41・・・松岡 沙生	・オルタナS早稲田大学高野ゼミ支局メンバー ・早稲田大学法学部
42・・・森本 朝子	横浜市立幸ヶ谷小学校 教諭(ESD推進委員・重点研究推進委員)
43・・・山下 達之	・京都大学環境サークル えこみっと ・京都大学フェアトレード推進サークル まなびやハチドリ
44・・・湯浅 梨奈	広島大学総合科学部自然環境科学科
45・・・吉岡 雄志	岡山県立矢掛高等学校 教諭(軟式野球部監督、ESD推進係)
46・・・好中 奈々子	・慶應ユネスコクラブ代表 ・渋谷ユネスコクラブ会員
47・・・劉 亦天	教育コーディネーター(フリーランス)

ふりがな 氏 名	あおき たくま	都道府県	東京都	
	青木 琢磨			
所属/肩書	稲城市立城山小学校 教諭（ESD推進委員）			
私のESD活動	探究的な学習活動を通して、自分の思いや願いを実現しようとして行動できる児童の育成			

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

3年生の総合的な学習の時間

<概要>

- ・食育を柱に「大豆」をテーマにして、年間を通した単元を計画した。（調べ学習、栽培、インタビュー、アンケート、劇発表など）
- ・課題設定を大事にし、児童の思いを優先しながら授業を進めていった。
- ・考えを整理するために思考ツールを活用した（ウェビングマップ、ボーン図など）
- ・栽培している方や給食の栄養士さんにインタビューをしたり、全校生を巻き込んだアンケートをしたり、人とのかかわりを各小単元に織り交ぜた。
- ・児童の「もっと大豆を好きになってほしい」という思いを全校生に伝えるために、学校行事につなげて、舞台発表に大豆をテーマにした劇を、児童が一部セリフを考えて発表した。

<成果>

- ・3年生の豆類に対する興味や知識が深まり、給食も残し物が少なくなった。
- ・舞台台本を考えるためのインタビューでは知識だけでなく、大豆を育てている方や栄養士さんの思いや願いも児童が汲み取ることができ、本やインターネットで知ることのできない内容の大切さにも気付くことができた。
- ・大豆をテーマにしたため、地域に歴史的・文化的教材がなくても扱える、テーマであり、広げやすかった。

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？またESD全体（地域や日本国内、国際）の発展にどのように貢献したいと思いますか？

教員として、ESDの観点をもって、全ての教科を指導していくことが大切であると考えます。また、学習を進めていく中でも、2つのことは必ず達成させたいと思っています。

一つ目は、願いや思いを自分でもち、それを実現させようとする児童の育成です。これはすべての行動の原動力となるものであり、これが生まれなければ探究的な学習はできません。

二つ目は、その思いや願いを叶えるためのスキルを身に着けさせることです。本やインタビュー、インターネットといった情報の収集能力や目的に合った思考ツールを活用するといった整理・分析能力、そして、相手に伝えるためのプレゼン能力です。

これらは、子供たちが大人になった時、その社会でも必ず求められる能力であると考えます。子供たちが将来、自己実現に向けて羽ばたけるように、教師として子供たちに指導していきたいと思っています。

また、ESD全体への発展への貢献については、ESDの研究を深めること、それを実践してうまくいくか確かめること、そういった地道な事を繰り返し、精錬されたものを発信することで、貢献へとつながるのではないかと思います。

ふりがな 氏 名	あらみや わたる 新宮 済	都道府県	奈良県	
所属/肩書	・奈良市立平城小学校 教諭 ・奈良ESDコンソーシアム			
私のESD活動	奈良大好き子にするために、人・もの・ことと出会う授業づくり、奈良ユネスコ青年部の子どもキャンプ運営			
活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）				
以前世界遺産のある奈良県斑鳩町で発掘調査員として働きました。教員になって子どもたちに地域にあふれる文化財の素晴らしさを伝えたいと思い入学した奈良教育大学教職大学院で新たにESDと出会いました。これまでの活動は以下の3つです。 1、奈良教育大学ユネスコクラブの立ち上げ・・・ 学生時代に学びを深めるためにユネスコクラブを立ち上げ、市内のユネスコスクールのESDに参画し、奈良ESDコンソーシアムの子どもキャンプの企画・運営を続けています。 2、陸前高田市文化遺産調査成果の教材化・・・ 「文化遺産がほとんど海へ流された町に希望を」という依頼を受けて始まった大学の陸前高田市浄膳寺の文化財調査に参加しました。発見された墨書から「陸前高田市と小笠原諸島との結びつき」が明らかになりました。この成果を教材化し教育委員会や地元の方に送りました。この教材が、地域の歴史を誇りに思い、地域を大切にすることを養い、持続可能で住み続けたい地域社会づくりの担い手になりたいという気持を育てることに寄与できるように、研究報告「陸前高田市文化遺産調査におけるESDの教材開発」を奈良ESDコンソーシアムで発表しました。 3、地域の博物館と連携したESD環境教育・・・ 昨年から奈良県川上村の博物館「森と水の源流館」と平城小学校が協同して、「人・もの・こと」と出会う社会科の授業づくりを始めています。「森と水と人のつながり」を学ばせるために、川上村の間伐材で作られた割りばしを調べ、森と水を守る様々な人に出会える授業をつくりました。この取り組みを環境省近畿地方環境事務所が行う「ESD:命をつなげる教育フォーラム 2016 夏」で実践報告をしました。 ○研究報告「陸前高田市文化遺産調査におけるESDの教材開発」 http://www.nara-edu.ac.jp/CERT/bulletin2013 ○「奈良 ESD コンソーシアム」実践事例集 博物館との共同研究授業指導案 http://jisedai.nara-edu.ac.jp/open/esd/index.php?action=cabinet_action_main_download&block_id=54&room_id=1&cabinet_id=6&file_id=104&upload_id=252				
ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？またESD全体（地域や日本国内、国際）の発展にどのように貢献したいと思いますか？ 私は今後奈良の博物館と連携したESD教材開発を行い、地域の歴史・環境を思い、地域を大切にすることを養い、持続可能で住み続けたい地域社会づくりの担い手になりたいという気持を育てていきたいです。そのためには「人・もの・こと」に出会うことが大切です。博物館と連携をすることで、様々な方面からの出会いをつくることができます。私は以前埋蔵文化財の仕事をしていたので、博物館の方々の、文化財を守り後世へ伝えようとする考え方や ESD の考え方は同じように感じます。また、学校も博物館も教育活動で協同したいと思いつながりながらも様々な制約に追われています。そこで両者の立場を経験した自分の強みを活かして、博物館と学校をつなげ協同した実践に挑戦します。その実践を大学機関などで発表することで、博物館との協同した授業開発に興味を持った教師と博物館をつなげる役割を担いたいと考えています。地域の博物館と連携するESDを進めていくためには奈良の事例だけではなく全国の事例や実践者の見方・考え方を集めることが必要と考えます。私は昨年度のコンファレンスでもあった「私の活動紹介」で、奈良県川上村の博物館「森と水の源流館」と授業をつくるなかで、悩んでいることや課題を共有し意見をもらいたいです。また出た意見を奈良ESDコンソーシアムで紹介し、全国の実践家の見方考え方を奈良で共有していきたいと考えます。				

ふりがな 氏 名	いこま だいすけ 生駒 大典	都道府県	愛知県	
所属/肩書	岡崎市立竜南中学校 教諭 (E S D教育・ユネスコスクール担当)			
私のESD活動	持続可能な地域社会のために、中学生が防災リーダーとなることを目標に掲げ、防災学習に取り組んでいます			

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

本校では、防災教育3年目となる一昨年に、「竜南防災教育モデル」を策定し、学びの小単元を踏んでいくことで、誰もが同じ教育効果を目指せるようになった。プランの概要は、「つかむ」段階として、防災講話や防災オリエンテーションなどを行う。次に「さぐる」段階として、地域に目を向けた防災マップの作成や、防災マップを使ったDIGによる学びが行われる。さらには「深める」段階として、夏休みに行われる東北地方訪問交流や衣・食・住の3カテゴリーをさらに細分化した専門性の高い調べ学習を行っている。最終的な目標として「ひろめる」段階では、防災フェスタの実施において学校や地域での共有化を図っている。1年間を通して、計画的で系統的な防災学習を行うことができるようになった。それにより、学年や学級、個人にいたるまで、高い防災意識をもたせることができている。

また昨年度は、全中学校の生徒会長、副会長が集まって行われる生徒市議会にて、「中学生が作る防災都市岡崎—防災フォーラムの開催」と題して、全市で行う防災フォーラムを提案した。そうしたところ、今年度「愛知県・岡崎市総合防災訓練」として実現することとなった。本校は、提案校として避難所設営ゲームHUGへの参加と本校の防災学習の発表をさせていただくこととなっている。

本校の防災学習の取り組みは、他の中学校では行っていないことが多く、本校の特色の一つにもなっているほどである。今後、本校の取り組みを地域、市に広げていきたいと考えている。

○「竜南いのち守り隊」 <https://www.youtube.com/watch?v=spki-JwSgJc>

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？またESD全体（地域や日本国内、国際）の発展にどのように貢献したいと思いますか？

少しずつ本校の防災学習が広まりつつある。それをさらにより多くの人に知ってもらおうことを考えている。

学校で行う防災教育は地域を巻き込んで行うことでより効果を発揮すると考えている。本校の防災学習では、まず「つかむ」段階として防災オリエンテーションや防災講話を行っている。生徒は少しずつ防災というものに興味を抱くようになる。夏休みには東北復興支援訪問(有志)を行い、被災地の現状を知り、震災の実際を知ることによって防災学習に対して意欲的になる。次に、「さぐる」段階として学区を知るために学区の防災マップの作成を行う。学区の現状を知ることによって、少しずつ地域の防災リーダーとしての自覚が芽生えるようになる。そして「深める」段階として衣・食・住に分かれてより専門性の高い学習へと発展させていく。

最終段階として「ひろめる」段階がある。防災フェスタを開催し、1、2年生に1年の学びを広めていきます。「ひろめる」段階では、「ひろめる」活動を行ってはいるものの、それはごく一部の人たちに限られる。少しずつ本校の防災学習も市内に広まりつつあるため、発表場所、発表の機会も増えてきた。それでも防災学習に興味のある方に限られ、地域一体とは程遠い現状にある。そこで、地域の方を招いて本校の防災学習を知っていただいたり、楽しく学べる防災食作りなどに参加していただいたりして、より地域の方に知っていただきたいと考えている。

ふりがな 氏 名	いしがき まゆみ 石垣 真由美	都道府県	岡山県	
所属/肩書	岡山市立西大寺公民館 事務嘱託			
私のESD活動	公民館職員として、地域の皆さんが“学び”“つながり” “力を発揮する”ための支援活動に取り組んでいます			
活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）				
岡山市の公民館では、「共生のまちづくりの促進」「環境意識の高揚」「健康づくりの支援」「男女共同参画の推進」「子育て・青少年の健全育成」「高齢者の仲間づくりと学習機会の提供」「安全・安心ネットワーク活動との連携」の7つの重点分野を設け、それらの課題を総合的に捉え、ESDの視点で展開している。 私が勤務する岡山市立西大寺公民館でも様々な学習・活動支援やネットワークづくりや人材育成に取り組んでおり、特に以下のような実践があげられる。 (1)環境意識の高揚・ローカル～グローバル視点の気づきをつくる場 「自然探検講座」では、地域に暮らす子どもたちが、西大寺の豊かな自然に触れ、様々な実体験をすることにより、幼少期～思春期の豊かな感受性を育むと共に、「ふるさと意識」を育んでいる。また、体験を通して、身近にある出来事や問題が世界の環境問題・課題につながっていることに気づく場をつくっている。 (2)NPO法人「みんなの劇場・おかやま」との青少年育成に関わる居場所・体験事業 子どもが様々な世代の地域住民と交流し、子ども自身が地域の大人やお兄さんお姉さんたちに見守られている・認められている実感を得る場となっている。「ノーマライゼーションの視点で子どもが自由に表現する・できる場づくり」「小学生・中学生の学習支援の場」を、地域の高校やNPO法人と協働し、持続性を担保するよう意識すると共に、共同学習・世代間（異年齢）交流の中で子どもたちのやる気を促進できるよう取り組んでいる。これに関わる大人の意識の変容もあり、関わりの中で地域の居場所づくりとしての効果も見られる。				
○「岡山市立西大寺公民館」 http://www.city.okayama.jp/kouminkan/saidaiji/index.html ○「岡山市立西大寺公民館 Facebook」 https://www.facebook.com/SaidaijiKouminkan/				
ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？またESD全体（地域や日本国内、国際）の発展にどのように貢献したいと思いますか？				
岡山市では、2014 年に「ESDに関する世界会議」が開催され、世界各国から、公民館での地域に根差したESD活動が高く評価されました。 マイノリティも含め地域に住む人たちが、安心して豊かに暮らし続けるまちづくり、それに関わる人たちが学びを通して力をつけながら活動を持続するための支援をしていきたいと思っています。 また、地域をベースにしながらグローバルな視点でも物事を捉え、様々な問題を自分事として考え、周りの人とつながりながら行動する人たちが少しでも増えるような支援をしていきたい。 SDGsの目標に教育があり、分野としても、現在公民館で地域の課題解決として取り組んでいる分野や課題がたくさんあります。公民館は地域の拠点として存在しますが、その役割をきちんと果たしていくことが、地域が持続的に豊かになり、地域平和、ひいては世界平和につながると信じ、活動していきたい。				

ふりがな 氏名	いしかわ あやか	都道府県	千葉県	
	石川 郁香			
所属/肩書	・ (公社)日本ユネスコ協会連盟理事(柏ユネスコ協会青年理事) ・ 柏市立小学校 教諭			
私のESD活動	民間ユネスコ運動における様々な取り組み。柏ユネスコ少年団の運営。小学校教育の授業内での取り組み			

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

小学5年生から柏ユネスコ協会に所属し、19年間ユネスコの民間運動に参加してきました。高校生の時にインドの農村地帯へ行き、教育の重要性を感じました。平和の実現には、教育の機会の重要性だけでなく、先進国及び途上国の上層部の人々が社会をどのように学び、社会問題をどのように捉え、どのように向き合っていくかが大切だと考えるようになりました。大学1年生の時、ESD の理念を始めて学び、私がそれまで取り組んできたユネスコ活動そのものが ESD であると学びました。その後、自主的な勉強会や小中学生への出前授業、募金活動、子どもたちとのキャンプ、スタディツアーなどを行う際は、常に ESD の視点を念頭に置き、取り組んできました。

現在、主に取り組んでいる ESD 活動は、①8月8～11日に開催した「第48回ユネスコ子どもキャンプ」の運営と、②「柏ユネスコ少年団」の運営です。①のキャンプは、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟が地域ユネスコ協会と共催で行っており、昨年度から「ESD の実践と青年育成」という目的が掲げられ、新たにスタートしました。昨年度から2年間が千葉での開催となり、運営・企画責任者を任されています。今年は、「描こう！ぼくらのカラフル世界(ワールド)」というテーマを設定し、他国・他地域の子どもたちとの関わりの中で、多様な考え方、文化を認め合い、主体的に社会作りに参画していける人を育てていきたいという思いを込めて企画・運営を進めています。②の柏ユネスコ少年団は、柏市在住・在学の小中学生を対象に月1回、国際理解学習やユネスコ活動を行っている社会活動です。持続可能な社会を創っていくために必要な学びと考え方を育てられるよう取り組んでいます。

○「公益社団法人日本ユネスコ協会連盟」 <https://unesco.jp/>

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？またESD全体（地域や日本国内、国際）の発展にどのように貢献したいと思いますか？

- ①民間ユネスコ運動として実施すべき ESD 活動を見出し、日本ユネスコ協会連盟に提案し、全国規模の活動として取り組んでいきたいです。日本ユネスコ協会連盟の最年少の理事として、ESD の風をユネスコ界に吹かせ、立派な ESD 活動の実施団体となれるよう展開していきたいです。
- ②小学校教員として学校現場で実施していきたいです。
- ③ユースカンファレンスで出会った仲間と、それぞれの経験や立場を生かせる活動を行い、それぞれが所属している団体の仲間にもさらにそのネットワークを広げ、大きな活動に広げていきたいです。
- ④民間ユネスコ運動をしている青年と、ESD 活動をしている他団体の青年を繋いでいきたいです。

ふりがな 氏 名	いしかわ よしこ	都道府県	香川県	
	石川 佳子			
所属/肩書	香川県立観音寺中央高等学校 教諭			
私のESD活動	学校と地域がコラボした地域活性化 ～年に1回のお祭りを通して変わる地域の姿～			

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

【学校と地域のコラボ】

前任校の岡山県立林野高等学校の取り組みの中で、ESD の視点を取り入れた問題解決型の学習である「総合的な学習の時間」に力を入れてきました。林野地区は岡山県北部の中山間地域に位置し、過疎化の問題を抱えているため、「持続可能な地域社会を創る形成者」を育てる活動に取り組んでいます。

平成26年度は人と人、人との、人と自然、人と社会といった「つながり」を意識した活動を中心に行いました。生徒は地域における問題を地域に実際に出向き、地域の方との交流を通して探っていきます。特に、学校の近くには商店街がありますが、現在は高齢化で活気がなくなっています。高校生は自分たちが生まれ育った地域に活気を取り戻そうと、どのようにしたら地域が活性化するかをテーマに活動し、その実践・探究の場として毎年9月に地域の方と高校生が共同で行うお祭り「むかし倉敷ふれあい祭り」があります。一昨年は地域の方に昔から愛されてきた「代官踊り」の復活を高校生が地域の町内会長さんたちに働きかけ、地域の方を学校にお招きし講習会を行いました。また、商店街のお店を生徒が手伝い威勢の良い声で呼び込みを行い、空き店舗を活用して高校生がお店をするなど、地域を盛り上げようと生徒と地域の方とが一丸となって活動を行いました。学習のまとめとして、9月のお祭りで課題や発見を学校に持ち帰り探究し、年度末にはレポートをまとめ、報告会を行いました。

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？またESD全体（地域や日本国内、国際）の発展にどのように貢献したいと思いますか？

私は家庭科教員として、現勤務校にて ESD の視点を取り入れた家庭科教育を行いたいと考えています。その中でも「食と環境」「衣服と環境」「住居と環境」といった環境教育に力を入れ、自己の家庭生活が地球環境にどのような影響を与えているのかを考えさせ、持続可能な社会を創るためにはどのような活動ができるのかについての問題解決型の授業を行いたいと思います。考えたことをホームプロジェクトなど家庭で実践し、友人・家族・地域に働きかけ、巻き込めるような実践活動にしたいです。成功体験を積み重ねて、ESD は様々な人や社会やものと繋がることのできる楽しいものであることを実感し、ESD を好きになってもらいたいです。そして、家庭科教員として ESD 活動全体が盛り上がるように、未来を担う若い ESD 実践者を増やしていきたい。

ふりがな 氏 名	いずみ こうたろう	都道府県	神奈川県	
	泉 光太郎			
所属/肩書	東洋大学文学部教育学科イブニングコース			
私のESD活動	「ナナメの関係」との対話による生徒の心にやる気の火を灯し、「生き抜く力」を育むキャリア教育			

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

私は大学1年生から2年生までNPOカタリバという中高生のキャリア教育をする団体でボランティアをしていました。現在、日本では「自分には価値がない」、「将来のことがわからない」という中高生が6人に1人という割合でいます。自信が持てない彼らは今見えている世界しか見えていないため将来や自分の可能性に希望を感じられないという現状です。生まれところによって自分の進路や職業が決まってしまうようなことを少しでもなくすために、私たちは彼らに「ナナメの関係」による関係で自分や将来への視野を広げます。今まで生徒の周りは先生や親といったタテの関係と友達や部活動の先輩といったヨコの関係でコミュニティが構築されていました。そこに会ったこともない普通の大学生や社会人というナナメの関係を築くことで、学校内で社会というものが何かを体感できると考えています。私たちはそんな体感を「対話」を通して授業をします。先輩が教えるのではなく生徒と対話をする中で先輩の知らないこと、生徒の知らないことを共に感じ合う「半学半教」の関係になることで生徒は自分にしかないものやできることを見つけることができ、自信につながり、将来を考えるきっかけを持つことができます。今まで学校教育、特に公教育は先生だけで教えることが多かったが、子供たちの多様な個性や将来への自信を育てるためには「学校で育てる」より「社会で育てる」ことが重要だと私は考えています。学校と社会がつながりをもつ教育をすることをカタリバは先駆的に活動しています。

○「カタリ場 HP」 <http://www.katariba.net/>

○「NPO カタリバ事業紹介ムービー」 <https://www.youtube.com/watch?v=YtNZOgkxVUQ>

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？またESD全体（地域や日本国内、国際）の発展にどのように貢献したいと思いますか？

私たち若者が次の世代として「栄区誕生 60 周年」を目指して、持続的な発展をしていくためにはまずは若者たちが栄区について考えられる機会を作ることが必要だと私は考えます。そのため今後は地元の中高生や大学生が交流できるコミュニティやイベントをつくり、まずは若者同士のつながりを強めていこうと考えています。そして私たち若者が栄区にできること考えるために勉強会や提言会などをつくっていこうと考えています。また地域の中学校・高校との連携も行い、学校の授業で「栄科」として「学校として栄区に貢献できること」を考え、実践するPBL 学習も行いたいと思います。

将来的には行政や民間企業、NPO との連携なども行い、若者たちによるソーシャルビジネスやローカルビジネスをするための私塾なども立ち上げて、行政への若者による政策提言も行っていきたいと考えております。

若者が社会と交わりを持つにはまずは身近な地元からできることをすることによって自信がつくと考えています。その他者貢献、社会貢献があるによって人は「自分の存在価値」を感じることができ、主体的に学べるのだと私は思います。今後は私が当事者意識を持ち「地域で人を育てる」ということを栄区から発信していき、行く行くは横浜市、神奈川県、日本に広めていき、「社会で人を育てることができる社会」を創っていきたいと考えています。

ふりがな 氏 名	えくに ともや 江國 友哉	都道府県 岡山県	
所属/肩書	・岡山市立桑田中学校 英語科 講師 ・NPO法人 国際協力研究所・岡山（ICOI）正会員		
私のESD活動	中学校の教員として、未来を生きる子ども達が広い視野 で社会を見る力を養うことができるような実践をする		

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

岡山市立桑田中学校の生徒に、ESDの視点から2つの授業を行った。ボランティア体験を生かした東日本大震災に関する授業と環境事業団「アスエコ」と連携した温暖化防止に向けた環境教育である。

○東日本大震災に関する授業について（2015年10月と2016年3月の計2回、学年一斉授業として実施）

中学1年生約250人に、福島県浪江町の「希望の牧場・ふくしま」でのボランティア活動を教材とした授業実践を行った。1回目の授業では、被ばくした牛を飼いつける牧場の姿や、現在も帰還や居住が制限されている地域の実態を伝えた。自分自身が体験したからこそ実感でき、みんなに話をするのができた話し、生徒たちは体験の大切さを知ることができた。2回目は、防災教育の観点から授業を行った。生徒たちは、1人の犠牲も出すことなく津波から避難することができた小学生の物語（『請戸小学校物語』）を読み、その小学生たちの姿から、どんなときでも、「落ち着いて考え、判断し、正しく行動することの大切さ」を学ぶことができた。

○温暖化防止を目的とした環境教育について（2016年7月に、学年一斉授業として全学年で実施）

今後の桑田中学校におけるESDの充実に向けたきっかけづくりとして、桑田学区で環境事業団「アスエコ」と連携して、温暖化の仕組みや家庭でできる省エネ法について関心・理解を深め、子どもたちの行動の変容を促した。

具体的には、子ども達は講演会を聞いた後に、自分が夏休みに取り組む活動を3つ選び、取り組むことにした（夏休みの課題）。

○非営利セクターとして 2016年8月17日に開催の岡山県環境教育ミーティングを実行委員として運営する。

○「NPO 国際協力研究所・岡山 ICOI - COINN ホーム」 http://www.coinn.org/会員団体紹介/npo_国際協力研究所・岡山-icoi/314-特定非営利活動法人-国際協力研究所・岡山.html

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？またESD全体（地域や日本国内、国際）の発展にどのように貢献したいと思いますか？

今後のESD活動として予定していることは、いくつかある。

まずは、「希望の牧場・ふくしま」への継続支援である。東日本大震災からすでに5年以上の時間が経過しているが、福島県内には現在でも立ち入りや居住が制限されている地域があり、いつ崩壊してもおかしくない状態で残されている旧請戸小学校の校舎が残されている。こうした実態を、今後も伝えていくべきだと考えている。そのような状況の中で、命の重さと復興への希望を訴えているのが、「希望の牧場・ふくしま」である。この牧場の活動や牧場主の吉沢さんの生き方から学ぶこと、子ども達に伝えられることは多くある。次に、環境教育に関して、私は現在、岡山県が推進している事業である環境学習指導者養成のOJTを積んでおり、年内に正式な指導者として登録される。その後は指導者として、自分が勤める中学校の生徒だけでなく、他校の中学生や小学生、地域の方など、様々な方が環境について学び、考えることのできる場をつくっていく。また、現在実践中の活動や今後の取り組みを「岡山県 環境教育ミーティング」などの場を利用して発表していきたい。最後に、今後については、このコンファレンスで会うことができた方々とのつながりを大切に、中学校教員の強みを活かし、学校現場と多様な方々や機関教育との協働によって子ども達の学びの機会を充実させ、未来を生きる世代を育成するという立場から、ESD全体の発展に貢献したい。

ふりがな 氏 名	おおつぼ みか	都道府県	東京都	
	大坪 未佳			
所属/肩書	法政大学経営学部経営戦略学科			
私のESD活動	大学の講義を通した、台東区に根付く「つまみ細工」の次世代への普及・継承活動			

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

大学の中小企業、商店街のコンサルティング(問題解決)に実際に取り組むプロジェクト型授業を通して、台東区に根付く「つまみ細工」と呼ばれる伝統工芸の次世代への普及・継承活動に取り組みました。

つまみ細工とは、小さな正方形の布をピンセットで折りたたみ、複数個を組み合わせて花や鳥の文様をつくる、江戸時代から伝わる東京都指定の伝統工芸です。また、主に舞妓や七五三・成人式などの髪飾りに使われています。

つまみ細工の置かれている現状を分析した結果として、顧客が限定的で、その要因の1つとしてつまみ細工に触れる機会が少ないことが挙げられるのではないかと考えました。

そこで、企業の立地する台東区に焦点を当てたところ、区役所では地域に根ざす文化や伝統の次世代への継承活動を推進しており、その活動をベースとして若年層にアプローチすることを考えました。区役所にも認知していただいたおかげで、区立20か所の保育園・幼稚園に企画を提案することができました。今回はすでに年間のスケジュールが確定しており、実施が難しいなか何とか1か所でワークショップを行い、25人の園児につまみ細工づくりを体験してもらうことができました。この活動が授業内でのものであり、活動期間が1年と限定されていること、そしてまだ長期的な成果は出ていないという現状がありますが、これからこの授業を受講する学生に引継いでもらい、長期的にはワークショップを体験した子どもたちやその親が七五三や成人式など、人生における節目の行事において、自分で身につける髪飾りを作るなど、能動的に行事に関わる姿勢を根付かせ、地域の文化や伝統への理解を深めることにつながればと考えています。

○法政大学地域研究センター社会貢献・課題解決教育 http://www.hosei-hurin.net/tri/kadai/index_top.html

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？またESD全体（地域や日本国内、国際）の発展にどのように貢献したいと思いますか？

大学の授業を通した「つまみ細工」の普及・継承活動は活動期間も限定されており、非常に短期的なものでした。そのため、これからも継続して関与し、尽力するのは難しいのではないかと考えています。だからこそ、このコンファレンスでの新しい発見や学びを通して、新しい取り組みを始められたらと考えています。また、来年から社会人という立場になることを踏まえて、所属する企業のCSR活動における次世代育成支援への取り組みを、現在の「金融についての知識の身に付けるセミナー」という限定的なものから、多様性や人権など幅を広げていくなど、所属する企業のESD活動の認知・拡大に貢献したいと思っています。

ふりがな 氏 名	おがた のぞみ	都道府県	長野県	
	尾形 望			
所属/肩書	・長野ユネスコ協会青年部 つなっぶる ・いいづな学園グリーン・ヒルズ小学校 教諭			
私のESD活動	日常の中に「平和」について考える機会をつくる。 対話を通したつながりの場の創造			

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

私は長野ユネスコ協会青年部つなっぶるに所属し、仲間とともに「平和」について考える活動をしています。きっかけは自分も含めた若者の、平和について過去から学ぶ機会の少なさ、家族や学校などのコミュニティ以外とのつながりの少なさへの不安でした。いまの社会情勢、いつ他国と戦争になるか分からないそんな怖さのある世の中。しかし、どこか自分事としては考えられない無責任さを感じていました。しかし、同じコミュニティに属する仲間とじっくり話をするのは、どこか気恥ずかしく、きっかけをつかめないでいる人は大勢いるのではないかと。そこで、立ち上げたのが長野ユネスコ協会青年部つなっぶるという団体です。そこは、多様な価値観をもつ若者たちが集まり、普段友だちとはあまり話さないようなテーマについて語り合う「きっかけづくり」の場です。平和について学び、1つのテーマについて語り合うワークショップ、スタディーツアーなど、ユネスコの理念に根ざした様々な企画を実践してきました。スタディーツアーでは実行委員長を勤め、戦争で原子爆弾が投下された長崎を訪れ、長野の若者と、長崎の若者とのディスカッション、現地の人から戦争体験を聴くなど、戦争を経験した人、長崎に生まれ育った人の話に耳を傾ける活動を行いました。これらの企画に多くの若者が参加してくれ、運営に関わる若者も増えてきています。これから先の社会を生きて、支えていく若者、その人たちに当たり前前に日常を過ごすだけでなく、立ち止まってじっくり考えるテーマを投げかけ、対話し、繋がり続けていくこと、これを継続させることも「平和」への一歩だと思い、ESD 活動として展開しています。

○「長野ユネスコ協会青年部」 <https://m.facebook.com/shinshu.unesco>

○「学校法人いいづな学園」 <http://www.iizuna-gakuen.info/>

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？またESD全体（地域や日本国内、国際）の発展にどのように貢献したいと思いますか？

「ESD」と聞き、どれだけの人が具体的にその中身をイメージすることができるでしょうか？「GAP」や「SDGs」など横文字の言葉が増え、ますます何を大切に、何に向かって活動していくのがよいのか戸惑うことがあります。けれども、それらすべては自分たちが地球上でよりよく生きていくために、今自分にできることを1つずつ積み上げ続けていくことがスタートだと考えています。長野ユネスコ協会青年部つなっぶるの一員として大学生や社会人と新たな企画に向けてのミーティングを重ねています。異年齢の若者の交流、SNS を通じて離れた場所で活動している若者との交流をさらに加速させ、ますます多くの人たちが「やってみたい、行ってみたい」と思えるような活動を企画します。また、自分たちの視点を地域にも深く向けて、地域の魅力や暮らす人の面白さ、新たな発見を通して、地域の活性化、未来に残していきたいもの、未来に築いていきたいものを老若男女みんなで考えあう活動へ展開していきたいと考えています。さらに、小学校教諭として、未来に生きる子どもたちに向けてこのメッセージを発信し続けることが自分の指名であると思っています。平和・環境・地域活性・国際、ありとあらゆるテーマがあるこのESD活動に1つでも多く触れ、子どもたちに向けた授業の中で、「持続可能な未来」をテーマにプロジェクトを重視した学習を展開することで、未来を創る子どもたちを育てていきたいと考えています。

ふりがな 氏 名	おぐち えいこ	都道府県	東京都	
	小口 瑛子			
所属/肩書	特定非営利活動法人 開発教育協会			
私のESD活動	友達のこと、世界のことを知って考え行動するきっかけを沢山提供する為開発教育推進 NGO で職員をしています			

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

① 携帯回収文化の定着と鉱物紛争問題の啓発

2012年から2015年まで、環境NGOにて「携帯電話に使われている鉱物がアフリカに暮らす人々を傷つけている」という問題に着目し、国内資源の有効活用を求める活動を実施しました。リサイクル企業・回収BOX設置企業との連携、携帯電話会社や行政へ問合せ、環境イベントでの市民への啓発を通じてこの問題を多くの人に知ってもらうことができ、2013年に東京都で小型家電リサイクル法が施行された時、行政・企業・市民が一体となって問題に向き合う重要性を実感しました。

② 開発教育推進 NGO での活動

今年の4月から開発教育協会というNGOで職員として働いており、各種学校への出張授業や授業プログラムの開発をしています。正直なところまだ成果と呼べる成果は出ていませんが、色々なことを自分ごととして捉え、様々な方向から物事を考えられる子どもたちをこれから増やして行きたいし、全国各地で活動されている方々を繋げるプラットフォームとしての組織力を強化していきたいです。

③ 外国にルーツを持つ子どもたちへの学習支援

今現在、外国にルーツを持つ子どもたちへの学習支援のお手伝いをしています。基礎学力の定着はもちろんですが、自分に自信をもって生きていける子どもたちになってほしいと強く思っています。一方で、彼らが小中学校で一緒に過ごしている「マジョリティ」の子どもたちからの辛辣な態度や言葉の話も聞くので、色々な価値観・様々な人がいてこそより良いものが生まれるということを体感できるような時間を他の子どもたちにも届けたいと強く思っています。

○「開発教育協会」 <http://www.dear.or.jp>

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？またESD全体（地域や日本国内、国際）の発展にどのように貢献したいと思いますか？

インターネットが普及し「世界との距離」は色々な意味で近くなった一方で、多様性を認め合う姿勢や様々な観点から世界を捉える学び方を学校で育む機会は未だに少ない、という事を前職で学校向け営業をしていて感じました。また日本でもヘイトスピーチが問題になったりと、国内のグローバル化も進む一方で「自分とは違うものを受け入れない」人が増えてきていることに危機感を覚え、今年の4月から開発教育推進 NGO に転職をしました。当 NGO では、学校機関を中心に講師派遣やイベント出展の機会があるので、今回のフォーラムでの学びをワークショッププログラムの中身や実施方法の改善につなげ、世界の問題に興味関心を持ち行動するきっかけを、そして、色々な価値観・様々な人がいてこそより良いものが生まれるということを体感できる時間を、より多くの方々に提供して行きたいと考えています。

また、ESD や開発教育は教育関係者でもまだ全員知っている言葉ではないと思います。推進 NGO として行政・学校機関・NGO 等より多くのセクターを巻き込み、開発教育・国際理解教育を推進して行く体制作りを強めて行くことで、ESD の発展に貢献して行きたいと考えています。

り が な 氏 名	おのせ ゆうり	都 道 府 県	東京都	
	小野瀬 悠里			
所属/肩書	江東区立八名川小学校 教諭（俳句・ユネスコ主任）			
私のESD活動	ESDの理念を礎に、不確定な未来を生き抜き、よりよく発展させる力を持った子どもを育てる			

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

江東区立八名川小学校の校内研究を通じて活動してきた。本校では「ESD カレンダー」を1つの端緒として「つながり」を意識したカリキュラムマネジメントに取り組んでいる。

たとえば『ごみとわたしたち』という学習単元では、区内にある清掃工場や埋め立て地などの施設、ごみ戦争などの歴史、家庭から出るごみ調査といった実体験など、ごみに関するたくさんの情報をつながけながら、育てたい児童像に迫っていった。また『八名川未来遺産』という学習単元では、未来に残したい地域の遺産について考えた。この時には、社会的な認知度が高い松尾芭蕉の史跡だけでなく、「みんなが遊んでいる公園」「卒園した幼稚園の隣の神社」など、地元ならではの思いと社会的な価値をつながけながら、児童が活動できるようにした。

これらの活動の背景にある先駆的な取り組みと言えるのが「ESDカレンダー」による学習観の見直しである。小学校で学習する教科をそれぞれ単独でみるのではなく、教科間の「つながり」を意識したカリキュラムマネジメントを行っている。また、単元を貫く児童の動機付け（本校では「学びに火をつける」と呼称）を意識した問題解決的な学習過程づくりを行うことで、学習に対する児童の意識が高まったり、学習活動が深まったりした。

これらの成果は、教師、児童、保護者や地域、それぞれの意識の変化として現れている。教師は、杓子定規な判断に終始せず、児童の多様な思考を許容して授業に臨むことができるようになった。児童は、自分らしさを表現することに価値がおけるようになった。保護者や地域は「学力=テストの点数・知識量」という考えに変化をもたらし、家庭全体で学習に協力をいただけることも増えた。

○「江東区立八名川小学校」 <http://www.koto.ed.jp/yanagawa-sho/>

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？またESD全体（地域や日本国内、国際）の発展にどのように貢献したいと思いますか？

まず、文部科学省主催の研修会等への積極的な参加を通して、自身の知識、経験を深めていきたい。校内においても、まず自分がESDの視点をもって授業づくり、単元計画づくりに臨む。クラスから学年へ、学年から学校へと拡大ができるように、理念・理論だけでなく実践と振り返りを積み上げていきたいと考えている。

次に、校内の研究会や自らの授業実践を通して、ESDの視点に基づいた授業づくりの成果を、ユネスコスクールのネットワークを通して発信していきたい。ユネスコスクールのネットワークは世界にもつながっているため、八名川小学校には教員に限らず、多くの国からもお客様が来校する。こういった環境をチャンスに変えていくべく、まずは実践者として自分の足下をしっかりと固めたい。そして、いざと言うときは世界に向けて成果を語れるように日々の研鑽を積む、という形で、ESDの発展に貢献したいと考えている。

ふりがな 氏 名	かわい ゆか 川合 由香	都道府県	広島県	
所属/肩書	広島県立府中高等学校 教諭（地理歴史科）			
私のESD活動	「広い視野をもって自分の生活や社会に目を向け、積極的に社会に参加できる生徒を育てる」活動			
活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）				
私は、高校教師という立場から、学校教育現場でESD活動に取り組んでいます。特に今年度は、担当している地理の授業や、2学年の総合的な学習の時間でESD活動を取り入れることを意識しています。 具体的に、まず地理の授業の中でとくに大切にしてきたテーマは、「異文化理解」と「防災」です。「異文化理解」については、世界の生活文化や宗教を取り上げる際に、海外の文化を見世物のように提示しないように気を付け、個々の文化に固有の価値観があることや多様な視点で物事を捉えることの大切さを伝えるようにしています。また、異文化間のコミュニケーションで起こり得る問題点やその改善点を考える授業を、『ひょうたん島問題』という教材を用いて行いました。一方「防災」については、レクリエーション等で校外へ行く前に、地形図の学習と合わせて、「ここで地震にあったら、どのように行動するか」と考える機会を設けるよう努めました。 また総合的な学習の時間では、学校が所属する地域（広島県府中市）について、生徒たちが自分たちの経験だけでなく、様々なデータや市の基本構想計画、アンケート調査などを集めた上で地域の課題を抽出し、それらの課題に対してどのような解決策があるかを考える活動を行いました。活動の締めくくりとして、各々が考えた解決策を市役所職員の前で発表し、講評を得る機会も設けました。その結果、生徒は主観的な考えだけでなく、多面的に物事を捉える大切さを得たと感じています。				
ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？またESD全体（地域や日本国内、国際）の発展にどのように貢献したいと思いますか？				
私は、今後も学校教育現場を中心に積極的にESD活動を展開していきたいです。まず何よりも、地理の授業のあらゆる単元で、ESDの考え方を取り入れた発問や活動を積極的に取り入れたいです。また地理の授業に限らず、総合的な学習の時間などの様々な教育活動において、ESD活動を率先して行う教員になりたいです。その際は、とくに「防災」や「地域活性化」というテーマを中心に、学校と地域とをつなぐような活動を展開したいです。そして、このような教育活動を行っていく中で、教科の知識に捉われずに、多様な視点を持って社会に積極的に関わろうとする子どもを育てたいです。そのためには、私自身が多様な視点を持ち、あらゆる教育活動の場でESD活動を展開できる教師になる必要があります。しかしながら、アイデアや授業構成員が不十分なためにESD活動をまだまだ実践できていないことが課題であり、具体的にどのように取り組めばよいのかという不安もあります。今回のユース・カンファレンスで様々なESD活動を知ったり学んだりし、この課題を克服してより多様なESD活動を学校で実践していきたいです。そして今度は、私と同じようにESD活動に不安を抱く教師がいれば、情報を提供するなどして、ESD活動を行いたいと考える教師を手助けできる存在になりたいです。そうして、ESD活動の広がりにも少しでも貢献できればと考えます。				

ふりがな 氏 名	きしもと たつや	都道府県	兵庫県	
	岸本 達也			
所属/肩書	・ NPO法人いまじん 講師兼事務局員 ・ 神戸大学大学院人文学研究科 社会動態専攻修士			
私のESD活動	不登校の生徒への復学支援や居場所づくり、および生活困窮世帯の生徒に対する学習支援などのサポート			

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

私は、父が 2013 年に設立した“NPO 法人いまじん”が取り組んできた、不登校生徒への支援や生活困窮世帯への学習支援の趣旨に賛同し、そのサポートに従事している。私の両親が学習塾を営んでいることもあり、その中で不登校になってしまった中学生や高校生の学びの場、居場所づくりとして NPO 法人を立ち上げたのが活動の契機だった。現在は 2014 年から姫路市学習支援事業の委託を受け、生活困窮世帯の中学生の学習支援を行い、私も事業には講師として関わってきた。

学習支援事業は、塾に通うことが経済的に難しい生徒の学力向上を目指し、一人一人の進路指導を通じてキャリア設計をサポートすることで貧困の連鎖を断ち切り、社会への参加を促すことを目標にし、2014、2015 年と卒業生を送り出してきた。具体的な活動では、学校外の学びの場として生徒の希望科目の学習や学校課題のサポートなどを行い、学習のみならず講師と生徒同士の交流会（お楽しみ会）や姫路駅周辺の清掃活動などのボランティア活動も積極的に開催してきた。

また、不登校生徒への支援は、通塾を通して基本的な学習内容の理解と、学校に行けないことへの生徒の自己肯定感低下を防ぐ取り組みを行っており、学校復帰を果たした生徒もいる。さらに、通信制高校との提携により学校外の学びの場を確保することで高校卒業資格を得られるように取り組んできた。また、課外活動として畑での農作業体験やバーベキューなどを行うことで、引きこもりがちな生徒に外で活動する喜びを得られるよう機会を設けている。

以上の活動を補助し、生徒たちと交流を行ってきた。これらの活動の社会的な認知度をより高め、持続可能な社会を形成する一助になればと思っている。

○「NPO 法人いまじんのブログ」 <http://npo-imagine.blog.eonet.jp>

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？またESD全体（地域や日本国内、国際）の発展にどのように貢献したいと思いますか？

私は現在取り組んでいる不登校支援や学習支援の活動を通して、経済的に困難を有する生徒や引きこもりから社会参加の機会を失ってしまった生徒たちと社会との接点でありたいと考えている。この活動を深めていくためには不登校に悩む方たちへの NPO 活動に対する認知度を上げるための取り組みや、活動に賛同して協力してくれるボランティアや賛助会員を募集するなど様々な方法が考えられる。実際、いまじんの活動は神戸新聞の取材を受け、作成したパンフレットの申し込みが日に数十件に及ぶこともあった。新聞や雑誌などマスメディアによる認知活動も必要であるが、SNS やブログ、ホームページの開設と言った発信も積極的に行う必要がある。情報発信の効果的な方法や活用についても参加者の方々と話すことが出来ればと感じる。

ESD 全体の発展については、神戸大学で開講されているような ESD 基礎などの講義や認知のためのワークショップを設けるといった手段が考えられるが、まずは NPO や社会福祉法人与自然・研究者との連携が必要であろう。連携を図ることで個人の活動にとどまらない地域や学校の活動として不登校支援や学習支援への理解を広げ、地域・学校・NPO が協働して問題解決に当たるような体制を作ることで互いの信頼関係を構築し、地域や日本の発展へとつながるような取り組みを行っていききたい。

ふりがな 氏 名	きむら ゆうか 木村 侑加	都道府県	大阪府	
所属/肩書	・ ガールスカウト日本連盟 Stop the Violence ACTIVATE team ・ 大阪府公立中学校 教諭			
私のESD活動	・ ジェンダーに基づく暴力に対するとりくみ ・ 中学校における人権・平和学習			

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

2011 年より、ガールスカウト日本連盟の Stop the Violence 委員会のメンバーとして活動しており、初めての国際ガールズデイでは、それまでに取り組んでいたデート DV のキャンペーンに関して、その必要性を国連大学で訴えました。また、キャンペーン活動を通じて、自分の周りや、自分がいるコミュニティには、デート DV だけではなく、広くジェンダーに基づく暴力があることに気づきました。

2014 年にインドのプネでガールスカウト・ガールガイド世界連盟が実施した、Stop The Violence Training Seminar に参加し、世界中の仲間と共に“Voices Against Violence プログラム”を受けました。文化によって暴力の形は様々であるけれど、根本的な原因や影響は一緒であるということを知りました。ジェンダーに基づく暴力を、人権という切り口で考えることで、日本の社会、そして自分のコミュニティの中で、当たり前の様に存在するジェンダーに基づく暴力に、自分の力で気づくことができるようになりました。現在は、少女と若い女性の権利への声をあげていくために、“Voices Against Violence プログラム”を日本連盟 ACTIVATE メンバーとして、日本全国のガールスカウトトレーナーやリーダーに実施し、日本全体で若い世代にプログラムを実施することのできるリーダー、トレーナーを増やしています。

先日、韓国の慶州で行われた国連広報局と様々な NGO が共催する 66th UN DPI/NGO 会議(SDG4:Quality Education がテーマ)に参加し、ガールスカウト世界連盟の代表として、また、グローバル市民の一員として、少女と若い女性の声を代表してスピーチを行いました。ジェンダー不平等と、ジェンダーに基づく暴力に反対の声をあげ、またそれに関わる教育、特にノンフォーマル教育の重要性を訴えました。

○少女に対する暴力をなくすキャンペーン(STV) <http://www.girlscout.or.jp/activities/project/stv/>

○国連広報局/NGO会議 リポート <http://www.girlscout.or.jp/report/20160020349/>

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？またESD全体（地域や日本国内、国際）の発展にどのように貢献したいと思いますか？

ガールスカウトという運動体の中で、ジェンダーに基づく暴力に取り組んでおり、女性の中で、Voices Against Violence プログラムに取り組む機会が多くありました。しかし、66thUN DPI/NGO 会議で、様々な課題に取り組んでいる人に出会い、私たちとは異なる視点を持っている人と関わっていくことが、自分たちの活動を発展させ、深めていく上で重要だということに気づきました。今後は、様々な性別の違いを超えて意見や考えを受け入れながら、Voices Against Violence プログラムを多様な人が取り組んでいけるようなプログラムにしていきたいです。ジェンダーに基づく暴力は世界中に様々な形で存在します。この課題に取り組んでいく際に、異なる立場の人たちも一緒に巻き込み、“考えていかなければならない”という意識、また、この問題に地域レベルで取り組むことが、事実、グローバルな問題(SDG)に取り組んでいるという2つのことを広め、ESD 活動をさらに深めていきたいと考えています。その他、ガールスカウトで、中・高校生のプロジェクト・マネジメントの力をのばすトレーニングにも関わっていた経緯より、その取り組みにもより力を入れ、中・高校生と実際に関わる中で、活動の場を広げていきたいです。

さらに、その他の課題(特に、人権・平和学習)に中学校の教育現場で引き続き取り組み、教員としてのフォーマル教育、ガールスカウトリーダーとしてのノンフォーマル教育、その両方から ESD 全体の発展の可能性をみつけていきたいです。

ふりがな 氏 名	こだ れみ 小田 玲実	都道府県 北海道	
所属/肩書	・ナヒヤ基金 事務局長/中国内モンゴル担当 ・酪農学園大学 国際交流サークル SukaRela 副顧問		
私のESD活動	中国内モンゴルの沙漠化地域、フィリピンの台風被災地での 環境保全活動を通じ、国際協力に感心ある大学生を育成		

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

私が事務局長を務める「ナヒヤ基金」は、中国・内モンゴル自治区の沙漠化地域をはじめ、マレーシア・ボルネオ島、フィリピン・セブ島と、気候変動に伴う自然災害や人間活動によって環境問題が起きている地域で活動を行っている。

中国・内モンゴル自治区では、大規模な開拓による過放牧・過開墾が原因で土地が劣化し、黄砂による砂丘の形成で農地や家が埋もれてしまい生活ができなくなるなどの問題が発生している。農業ができないことで貧困になり、貧困家庭の子どもたちは学校に通えない。そこで、地域住民と協力して植林を実施し、また農地も計画的に利用することで過開墾を防ぐなど、土地劣化を防止する取り組みを 2005 年から開始した。植林に使用する苗木は地元の小中学生が育て、当基金が買い取る。この代金は学校で管理され、貧困家庭の児童の奨学金や学校設備の補修等に充てられている。現在は緑化が進み、学習環境も改善されつつある。

フィリピン・セブ島では 2013 年 11 月に発生した大型台風 30 号の被災地域で活動を行っている。セブ島北部では、人的被害は少なかったものの、住居やインフラ、主要産業である果樹が大きなダメージを受け、日常生活が送れず、また経済活動も出来なくなってしまった。そこで、現地の小学校や村議会と協力し、果樹の再生や住民の防災意識を高める活動を行っている。

また、私は酪農学園大学国際交流サークル SukaRela の副顧問を務めている。学生たちとともにナヒヤ基金の活動に取り組んだり、日常的に留学生との交流をさせたりと、国際理解の促進に取り組んでいる。彼ら若い世代に少しでも多くのきっかけを与え、国際協力の現場に出られる人材の育成に努めている。

○「ナヒヤ基金 Facebook」 <https://www.facebook.com/nahiyafund/>

○「酪農学園大学国際交流サークル SukaRela Facebook」 <https://www.facebook.com/SukaRela.RGU/>

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？またESD全体（地域や日本国内、国際）の発展にどのように貢献したいと思いますか？

ナヒヤ基金のネットワークを活かして、活動地と日本の計 4 カ国による学校教員向けシンポジウムを開催したい。それぞれ気候や環境問題も異なるため、それぞれの国で起きていることを相互に理解し、環境問題はその国だけの問題ではないということを各国の子供達に知ってほしい。教員やカウンターパートの担当者は、相互に意見交換をし、地元での活動に活かしてほしい。

酪農学園大学国際交流サークル SukaRela は RCE 道央圏に所属しており、さまざまな ESD 実践団体・学校と交流を持つことができる。北海道の内向きの若者の多くは、道外や海外で行われるカンファレンスやユースサミット等への参加に消極的である。その理由を聞くと、「どうせ東京の偏差値が高い有名大学の学生しか選ばれない」、「万が一選ばれても恥ずかしくて大学名を言えない」、「他の参加者とのレベルが違いそうでディスカッションできない」といった、自信のなさや情報不足から来るものと考えられる意見が多かった。北海道から、あるいは地方の有名ではない大学から参加者が増え、翌年の応募者にアドバイスをする仕組みができれば、もっと自信を持って様々なプログラムに参加できるのではないだろうか。本学の学生らのナヒヤ基金の活動への取り組み、その他学生が主体的に参加可能な国際協力に関わる活動等を、学生目線で継続的に発信し、大学生どうして様々なプログラムへの参加をアドバイスし合う仕組みづくりを提案していきたい。

ふりがな 氏 名	こばやし あすか 小林 明日香	都道府県	神奈川県	
所属/肩書	東京大学公共政策大学院 公共政策専攻			
私のESD活動	草の根レベルと政策レベル双方からの国際教育協力 (例：教育現場における子どもの人権のアドボカシー活動)			
活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）				
① 【現在】Human Rights Watch にて日本における児童養護施設にいる子どもたちと LGBT の子どもたちの教育環境改善に向けた政策提言に貢献した。 ② 国際協力機構(JICA)のミャンマー事務所にて 2015 年 11 月から 12 月まで業務に携わった。ヤンゴン工科大学とマンダレー工科大学の 6 学科を対象学科の研究と教育に関する能力向上に貢献した。 ③ UNESCO-IIEP にて 2015 年 05 月から 2015 年 08 月で業務に携わった。専門家を対象とした、教育計画・マネジメントに関する問題、手段、技法に関する知識や能力を強化と、発展途上国の国々(主にアフリカと東南アジアの国々)の教育省の方々による教育政策提案書作成へ貢献した。 ④ KIAFRIKA にて 2012 年 07 月から 2012 年 08 月まで、業務に携わった。アフリカのケニアにて、日本の政府開発援助(ODA)支援下にある、NGO にて、指導教員の能力向上に貢献。 ⑤ 特定非営利活動法人 ACE にて、2011 年 11 月から 2012 年 03 月まで、ガーナにおける児童労働撲滅運動に貢献した。 ⑥ 学生有志団体設立し、カンボジアプロジェクトを実行した。認定特定非営利活動法人日本地雷処理を支援する会の協力の下、地雷の危険性に対するアドボカシー運動に貢献した。				
ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？またESD全体(地域や日本国内、国際)の発展にどのように貢献したいと思いますか？ ハーバード教育大学院に進学後、大学院で開始した社会起業家育成のプログラムの継続・発展を行いつつ、留学中に得た人脈を利用して、世界銀行のワシントン D.C. オフィスにて教育セクターの Adult literacy/non-formal education にてインターンを行う。具体的には、現在マリで世界銀行が実施している社会で必要なスキル習得に向けた若者を対象とした教育改革と若者の仕事機会の創造を行うプロジェクトに関わりたい。その後、国際協力機構の教育専門家としてミャンマーで現在行われている、教育の質の向上を目的とした教育政策アドバイザーのような案件に携わり、現場での職務経験を積む。その後、YPP 制度を利用して、世界銀行に教育専門家として入行し、再度 Adult literacy/non-formal education に携わる。世界銀行で培った、教育協力を経済の視点から分析する知識や能力を応用し、UNESCO MGIE にて教育を通じた平和、ESD グローバルシティズンシップの実現に貢献し、日本の大学を中心に、客員教授として、次世代のグローバル人材育成を積極的に行う。 長期的には、政府リーダーや教育省、教育機関等のアドバイザーやボードメンバーとして、教育の質の向上、「持続可能な開発のための教育(ESD)」とグローバルシティズンシップの相互強化に貢献する。				

ふりがな 氏名	さいとう みさき	都道府県	山形県	
	齊藤 美咲			
所属/肩書	東北芸術工科大学デザイン工学部コミュニティデザイン学科			
私のESD活動	高校生が地域と関わりながら成長する SCH（スーパーコミュニティハイスクール）を増やすための支援活動			

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

私が通う東北芸術工科大学デザイン工学部コミュニティデザイン学科は、2014 年に設立した新しい学科で、コミュニティデザインという言葉が世の中に広められた studio-L の山崎亮さんが学科長をしています。専任の他の先生方も studio-L のスタッフであり、コミュニティデザインの現場で実際に活動している方々のもと学んでいます。

今年の 2 月にコミュニティデザイン学科が主催で行った「第 2 回 SCH（スーパーコミュニティハイスクールの略）シンポジウム」の学生スタッフをしました。5 人の学生が、高校生のアクティブラーニングに精通している岐阜県可児高校の浦崎太郎先生と静岡県富士市立高校の眺野大輔先生、スーパー公務員である山形市役所の後藤好邦さんにヒアリングを行ったり、地方創生全国コンファレンスに参加してアイデアをいただきながら 2 日間のプログラムを検討しました。

高校教諭、行政マン、民間 NPO、そして高校生など、様々なセクターが全国各地から山形に集合。「高校生を地域活動に！」がテーマの今回は、地域の元気と高校生の未来をつくるために何ができるかを話し合いました。高校生と地域が連携している先進事例の発表やワークショップを行い、都道府県別のチームに分かれ未来へのアクションを考えました。私がファシリテーターを務めた東京チームは、このカンファレンスをきっかけに、『杉並発ハイパー高校生マネジメントプロジェクト』というプロジェクトが始まっています。

このカンファレンスを通して、私自身様々なセクターの人と意見交換をすることで、高校生のアクティブラーニングの重要性を感じました。そのため、4 月から大学で「SCH 東北」というチュートリアルを立ち上げ、活動を続けています。

○「第 2 回 SCH シンポジウム Facebook」 https://www.facebook.com/events/456613494549551/?active_tab=highlights

○「SCH ネットワーク Facebook」 <https://www.facebook.com/sch.network.sch/>

ESD 活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？また ESD 全体（地域や日本国内、国際）の発展にどのように貢献したいと思いますか？

■今後の活動の展開・・・ESD 活動を題材とした卒業研究をしたいと考えています。学校教育以外にも、地域教育（社会教育）、生涯学習などまちづくりにおける教育分野は幅広いです。自分がどの分野を研究対象にするかはまだ決まっていますが、ESD 日本ユースコンファレンスを参考に、また、「SCH 東北」の活動を深堀する形で研究をしていきたいと考えています。

■ESD 全体の発展にどう貢献したいか？・・・コミュニティデザインは ESD を実現する上で、カギとなる分野だと思っています。コミュニティデザインとは「人がつながる仕組みをデザインすること」です。地域にある課題を地域の人たち自身が発見し、それを自分たちの手で解決していけるようサポートするのがコミュニティデザイナーの仕事です。地域の人たちが自分たちで課題を見つけるのは意外と難しいことで、仮に問題を発見できたとしても、その事例や解決方法がわからず悩んでいるという地域は数多くあります。地域だけでなく、学校教育の現場も、同じようにアクティブラーニングの手法がわからず悩んでいます。持続可能な改善・解決を目指すためには困っている人たちに直接的な助け舟を出すのではなく、困っている人たちが本人が自ら課題を解決することが重要です。その本人のサポートができるコミュニティデザイナーになり、しくみをデザインすることで ESD の発展に貢献したいです。

ふりがな 氏 名	さくらい こうへい 櫻井 航平	都道府県	神奈川県	
所属/肩書	東京学芸大学院教育学研究科 総合教育開発専攻			
私のESD活動	理科の授業における環境学習についての調査 ESDとは何か考える			

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

2012年から2016年まで環境 NGO 団体の子ども国連環境会議推進協会で合宿型や一日のイベントを運営していた。イベントの概要としては、持続可能な社会作りに向けて先進的な取り組みをしている企業・研究機関・大使館・省庁・自治体と連携して、主に中学生、高校生を対象とした協働ワークショップを開催し、持続可能な社会づくりで活躍する環境リーダーの育成であり、長期休みの合宿では毎回60人ほどの中高生が参加する。活動については環境 goo エコトレンドに掲載や高校生新聞や企業の環境報告書に掲載されたほか、当イベントに参加していた中高生が中心となって活動していたプロジェクトチームが生物多様性アクション大賞の審査員賞を受賞した。

2014年に新宿環境活動ネットにて環境学習の推進に取り組み、市民・事業者・行政と学校の連携と協働で、環境学習・環境活動を支援する「新宿環境学習応援団」まちの先生見本市の事務局員としてプロジェクトの準備、運営を行った。成果としては約 50 の環境団体がブースを出展し、来場者は 1000 人を超えた。

2015年は特定非営利活動法人エコ・リーグの「環境」就職・進路相談会という様々な環境の仕事に携わる社会人の方に来ていただき、環境の仕事を深く理解する機会を学生へ提供する「環境就職」をテーマとした全国最大規模イベントに当日の運営として参加。

2016年は引き続き「環境」就職相談会を実行委員としての立場から、環境に携わる仕事を知ること、学生が社会人になってから自分がどのように環境問題と関わっていくのか考える場を提供していく予定。

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？またESD全体（地域や日本国内、国際）の発展にどのように貢献したいと思いますか？

今後の活動としては、教員という立場から ESD の推進に当たっていく事を考えている。教員として取り組めることとしては、3つ考えており、授業の中で他教科とのクロスカリキュラムを行うことで ESD 活動を行っていくこと。授業だけではなく、学校生活の中で全体行事や特別活動といった時間で ESD 活動ができるような環境づくりを行っていくこと。最後の取り組む内容としては、ESD 活動をする教員を学校内に増やす広報や教員同士の会議で ESD について扱うことを行うことで、クロスカリキュラムや全体行事などでの ESD 活動に対して多くの教員が積極的に働きかけることができるような環境を作っていく事が考えられる。

ESD 全体の発展としては、まずは学校現場と地域社会のつながりを強くすることで地域密着型の学校を作っていく事。学校周辺の地域に対して子供たちが興味を持つことで、地域ぐるみの学校運営や、教科の授業の中でも、地域に住む方や、地域の企業や市民団体を外部講師として協働して授業を作っていく事から行うことで、地域の特色を生かした授業運営・学校運営を行っていきたい。

また、ESD の活動として、異なる分野の方と積極的にネットワークを構築することで、自身の ESD 活動に限らず、ESD 活動自体のもつ学際性を今よりも更に強めていきたい。

ふりがな 氏 名	しらい まれちか 白井 希知	都道府県 愛知県	
所属/肩書	・豊橋市立章南中学校 教諭 ・汐川干潟保全実践プロジェクト該当学年職員		
私のESD活動	勤務校の生徒や地域の方々とともに、校区内にある汐川干潟を舞台に環境学習に取り組んでいます		

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

<H27年度までの活動>

- 毎年2回「観鳥会」（春：2年生、冬：1年生）実施
講師として「汐川干潟を守る会（代表：藤岡エリ子さん）」を招いている。
※1年生は、事前学習として12月に「野鳥コンクール」を実施。野鳥の名前を覚える。
- 「環境カリキュラム」を活用した授業実践（学校訪問、授業研究で成果等を検証）
- 26年3月 『汐川干潟再生プロジェクト』に向けた講演会
講師：名城大学 特任教授 鈴木輝明先生
- 26年6月 『汐川干潟保全実践プロジェクト』スタート（市環境保全課とのタイアップ）
2年生によるアサリを増やすための方法を実践
講師：藤岡エリ子さん他（汐川干潟を守る会）
- 26年9月 環境学習デイ（全校）
6月に実施したアサリを増やす方法の検証
講師：藤岡エリ子さん他（汐川干潟を守る会）
- 26年11月 ESD世界大会（名古屋）にてプロジェクトの実践と成果を発表。
- 27年4月 干潟講演会（全校）
講師：藤岡エリ子さん
- 27年6月 『汐川干潟保全実践プロジェクト』検証活動
2年生が昨年設置した仕掛けを検証するとともに、生物調査を行った。
- 27年9月 干潟講話（2年生）
講師：鈴木隆年さん（杉山町天津在住）
環境学習デイ（全校）
設置してある仕掛けの生物調査、新たな仕掛けの設置、クリーン活動を行った。
- 27年11月 第2回東三河ESD・ユネスコスクールフォーラム参加
生徒会役員が『汐川干潟保全実践プロジェクト』などについて発表。
「汐川干潟を保全する会」発会式、総会参加
生徒会役員が、学んできた汐川干潟のことを地域に紹介。

○「豊橋市立章南中学校」 <http://www.shonan-j.toyohashi.ed.jp/shonan-j/index1.html>

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？またESD全体（地域や日本国内、国際）の発展にどのように貢献したいと思いますか？

まず、他の地域ではどのような実践がなされているのか、ESD活動をどのように捉えているのか、今回のコンファレンスの交流をとおして学びたい。そして、学んだことを勤務校および、豊橋市のESD推進に生かしていきたい。ESD全体として、推進のためのリーダー（スピーカー）として活躍したい。勤務校（以下章南中学校）が今年度取り組むESD活動予定を以下に示す。

章南中学校では、10年以上も前から環境教育が伝統的に進められている。生徒らは自分たちを取り巻く環境を理解する目的で校区内にある「汐川干潟」に着目した。汐川干潟は日本でも有数の渡り鳥の飛来地で、生物学的に見ても、大変価値のある場所であり本校でも「観鳥会」を、年に2回行っている。また、汐川干潟の重要性を学び、干潟をきれいにしようと様々な活動をしている。汐川干潟を生物の住みやすい環境にしようと、継続して530運動が行われている。今年卒業した生徒らは、さらに活動の幅を広げることを考えた。アサリの浄化作用に目を向け、今の汐川干潟には、アサリが必要であると考えた。そして、豊橋市環境保全課の方に応援を頼み、干潟保全実践プロジェクトを立ち上げた。現在は、このプロジェクトを引き継ぎ、新たなアイデアで実践している。今年は6月8日に2年生全員で汐川干潟に行き、生物調査を行った。今後も汐川干潟の保全活動に取り組んでいきたいと考えている。

ふりがな 氏名	すぎた かほ	都道府県	岡山県
	杉田 果穂		
所属/肩書	岡山大学教育学部学校教育教員養成課程特別支援教育コース		
私のESD活動	ユネスコスクールの高校生と共に学び、ESD実践力を 培うESD学習会におけるサポート		



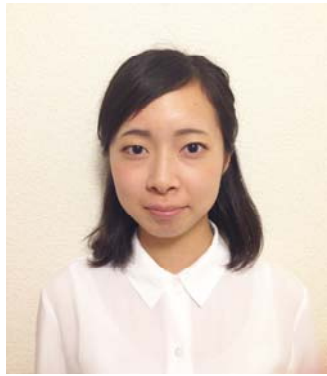
活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

私は、2014年に岡山で開催されたユネスコスクール世界大会高校生フォーラムにおいて、大学生スタッフとして参加させていただきました。出身高校がユネスコスクールであったことや ESD に関心を持っていたことがきっかけです。この世界大会に向けて、約1年間という準備期間の中で岡山・大阪の高校生、大阪市立大学の学生、高校の先生方、岡山市 ESD 推進局の方々と連携し、数十回にわたる準備セミナーを行っていく中で、「ESD ってなんだろう？」というテーマに真摯に向き合う高校生の姿を見ることができました。そして、教師でもなく、同学年でもない、大学生という立場からどのように高校生にアプローチしていけば良いのか、どういった役割があるのか、ということをお市立大学の学生とミーティングを繰り返し行いながら話し合いました。主に大学生の役割としては、準備セミナーにおける会場設営、状況の把握・連絡、高校生へのアドバイス、雰囲気作りなどが挙げられます。高校生と歳の近い大学生だからこそできる関わりを、大学生一人一人が考え実行することができたと思っています。当日は、34か国の高校生と、日本からは8県にわたる高校生が集結し、白熱した素晴らしい世界大会を作り上げることができました。この経験は私にとって、本当に誇り高きものとなりましたし、多くの人と人がつながり、一つのことに向かって一生懸命に共に取り組むことの素晴らしさを改めて実感することのできた瞬間であったと思っています。

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？またESD全体（地域や日本国内、国際）の発展にどのように貢献したいと思いますか？

- (1)ユネスコスクールの ESD 学習会・・・ESD の考え方や取り組みを多くの高校生が知り、考えてほしいと思っています。「ESD についてもっと知りたい！」「こんな取り組みをしてみたい！」と、一人でも多くの高校生に思ってもらえるよう、大学生という立場から高校生に語ることでできるメッセージがあると思っています。私自身も学び続ける姿勢を忘れず、高校生たちにその思いを伝えていきたいです。
- (2)教師として学校現場に出た際に取り組みを行うこと・・・具体的な活動内容は申し上げにくいですが、人権教育や国際理解教育などに尽力していきたいと考えています。特に、私は国際協力に関心があり、青年海外協力隊への参加を希望しています。どの地であっても、私の学びや実践を生かすことができるよう、継続的に学び続けていきたいです。
- (3)現在所属しているサークル活動・・・私は岡山大学国際医療勉強会 ILOHA という団体に所属しています。高校3年生の夏、JICA 高校生派遣プロジェクトにおいて、ラオスに訪問したことがきっかけで国際協力に関心を持つようになり、1年生の頃から世界のさまざまな分野における学習やフィールドワークを行ってきました。自分とは異なる考え方をもつ部員から多くの刺激を受け、広い視野で物事を考えることができるようになったと思っています。まずは同学年のメンバーや後輩に私のこれまでの学びを伝え、今後のサークル活動が世界の誰かのために役立ってほしいと考えています。

ふりがな 氏 名	せき たかひろ 関 貴大	都道府県	東京都	
所属/肩書	・早稲田大学創造理工学部環境資源工学科 ・学生NPO農楽塾			
私のESD活動	都会における気軽な農作業体験によるSDへの意識の触発			
活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）				
■私は、大学でのサークル活動としての農業を行っています。活動内容としては、新宿区という日本有数の都会の中にある大学構内における農作業、主に稲作です。東京の多くの子供・学生たちは、都会で生まれ育ち、自然と触れ合う経験をしたことがないという人が多いです。ましてや農作業を経験したことのある人はほぼいません。そこで、私達の団体は、大学構内に田んぼ・畑を作り、早稲田大学の学生、あるいは近隣の子供たちに農業を手軽に体験してもらう活動を行っています。現在、環境破壊、食料不足など、様々な問題が騒がれていますが、都会で生まれ育ち、不自由なく暮らしてきた人たちは、そういったことに関心を持つきっかけすらありません。そこで、都会で生活しつつも手軽に農作業を体験してもらうことで、自然と触れ合うことの心地よさ、そして食べ物を生産することの苦労を実感してもらうきっかけ作りを行っています。実際に農作業体験した人に話を聞いてみると、「食べ残しが減った」などの声を聞くことができ、ESD としての成果が出ていると考えられます。 ■私はイオン環境財団主催の環境フォーラムに日本代表として二度参加しました。そこでは、中国・ベトナムにおいてアジア各国の学生と共にフィールドワークを行い、環境について議論を行いました。また、UNESCO/APCEIU のプログラムの一環として日中韓ユースフォーラムに参加し SD に関して話し合いました。これらの国際プログラムを経験し、日本と海外における環境意識の違い、またお互いの文化を知り、協力し合うことの大切さを実感しました。帰国後、異文化理解、また対日文化理解の促進のため、大学内の国際イベントに参加し、外国人留学生に日本語を教える活動等を行っています。				
○「学生 NPO 農楽塾」 http://www.nogakujuku.net/				
ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？またESD全体（地域や日本国内、国際）の発展にどのように貢献したいと思いますか？				
私は、自分の ESD 活動をさらに深めるために、都会の子供たちに農作業を体験してもらう機会をもっと提供したいと考えています。農作業を通じて、食べ物を作ることの大変さ、自然と触れ合うことの心地よさを実感し、食べ残しを減らすとともに、環境を破壊することに対するためらいの心を持ってほしいと思っています。現在の日本では、豊かな暮らしができるため大量生産・大量消費を行っています。発展途上国では、食べ物や日用品をとて大切にしています。私たちが簡単に捨ててしまうようなもの、コンビニで簡単に手に入れられてしまうようなものでも、発展途上国の人々にとっては手に入れることが難しいのだということ。そして、同年代の子供たちが、学校に行きたくても行けず、過酷な仕事を行っているということ。現代の学校で教えるべき事実であるにもかかわらず教えられていないこれらの事実をドキュメンタリーや写真など、子供たちにとってインパクトの残るかたちで、学校で放映したいです。また、ESD において最も重要であるのは「体験」であると考えられますが、発展途上国の暮らしを実際に体験してもらうことは難しいです。しかし、ESD を行う立場となる私たちですら、そのような「体験」をしていないとなると、机上の空論となってしまいます。したがって、個人的にでも発展途上国に出向き、そこでの暮らしを「体験」しに行きたいと考えています。				

ふりがな 氏 名	だいどう かな 大道 加奈	都道府県	岡山県	
所属/肩書	岡山大学教育学部学校教育教員養成課程中学校英語専攻			
私のESD活動	教育分野でのESD活動を行っている。具体的には、高校生のESD学習を身近な立場としてサポートしている			
活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）				
私は2014年に行われたユネスコスクール世界会議とそれに伴う準備セミナー等において大学生スタッフリーダーとして運営サポートを務めました。会議の準備段階では高校生が世界会議本番において世界各国の高校生と共創的に議論ができるよう、受付や海外ゲストのアテンド、議長団など高校生のそれぞれの運営準備をサポートしました。特に、海外ゲストアテンドに関しては、文化的多様性や価値観の多様性についての理解を重視しアテンドを行うことができるようサポートに徹しました。世界会議本番では世界中から集まった高校生との2日間に渡る議論が複数の観点から行われ、宣言文の採択が協働して行われました。世界会議を通して得られた高校生の学びを持続的なものにするため、その後も引き続き行われたESD研修会にて高校生の学びのサポーターとして活動しています。またその他にも、東北大震災の被災地である気仙沼や陸前高田などを訪れ、防災の観点から実地研修を行いました。現地では防災教育が災害において非常に重要であることや、地域間でのつながりが被害を最小限に抑えるに当たって欠かせないということを学びました。大学3年次には奈良教育大学の学生と共同してエコの観点からのESD活動として古着交換を行うイベントを実施しました。またフィールドワークとして奈良の世界遺産を巡り文化保護の観点から持続可能性について研究しました。これらの活動を通して得た経験と知識を将来の教員生活において活かし、持続可能な社会の担い手の育成に積極的に取り組みたいと思っています。				
ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？またESD全体（地域や日本国内、国際）の発展にどのように貢献したいと思いますか？				
これまでの経験を生かし、今後は教員として生徒のESD活動をサポートしていきたいと考えています。具体的には、地域の文化や伝統についての学習や、地域が抱える諸問題の把握とそれに伴う活動を計画・実行し、生徒の学びを深めていきたいと考えます。地元岡山県民としてのアイデンティティを持ち、積極的に地域や社会への貢献活動が実践できるような人材の育成に努めていきたいです。また自身の留学経験を生かし、グローバル化に伴う文化多様性や多文化共生についての理解と受容を生徒が出来るよう日々の教育活動において学習活動を取り入れていきたいです。そのために、世界の様々な国の人々の交流を可能とする場の提供やイベントの企画を積極的に行っていきます。これらの活動を通して生徒一人一人が身近に存在する課題に気づき、その課題に積極的に対処しようとする姿勢や異なった価値観をもつ人々と共生していく姿勢を育成できると考えています。そして結果的に、これらの活動が未来の社会の担い手の育成につながり持続可能な社会の担い手づくりに貢献できると考えています。				

ふりがな 氏 名	たかはし なおや 高橋 尚也	都道府県	埼玉県	
所属/肩書	埼玉大学大学院理工学研究科 博士前期課程			
私のESD活動	スウェーデンで調査した環境教育に関する報告活動、スウェーデンの環境教育の実践活動 (@学童保育 in 関東)			
活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）				
効果的な環境教育は市民に“人間活動が自然環境に与える影響に関する理解を助ける”、“成人後の科学リテラシーや科学技術への関心度を増進する”という考えのもと、環境教育及び科学教育の理論と実践を行っています。 <理論> 持続可能な社会の形成には科学技術の使用は不可欠であり、科学技術をどのように支持するかについて市民が関心を持つことも同時に必要なものとなります。 そこで、環境・科学に対する関心度の高いことで知られるスウェーデン国内の成人に対して、科学技術に対する態度や理科・環境教育についてアンケート調査/ヒアリング調査を行いました(2015.8-2016.6)。その結果、就学前から始まる様々な環境教育が成人後の科学技術に対する関心度に大きく影響していることが示唆されました。そしてその教育は教育機関だけではなく、自治体や企業が協力し合い連携して展開されていますが、現在はそのネットワークのあり方について調べています。 <実践> 帰国後は、①.その調査結果や、スウェーデンの事例を紹介・提言する活動や、②.そのデータや結果を元に、日本国内で機能させるために、その取り組みにおける背景などを考慮し、修正を加え実践しています。現在はその一部を埼玉県内の学童保育の団体の方々の協力のもと、小学生(低学年—高学年)を対象に実践しています。				
ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？またESD全体(地域や日本国内、国際)の発展にどのように貢献したいと思いますか？				
今後、スウェーデンで調査したことに関する発表を控えています(サイエンスアゴラ、生化若手の会夏の学校 など)。これらの発表を通し、様々な立場の方に対して情報の発信を行うと同時に、意見を伺いより効果的な(科学技術と社会の関わりを伝えられるような)理科環境教育に関する取り組みを行いたいと思っています。 スウェーデンでは、教育機関のみならず、企業や自治体を始め多様な主体が連携し街全体で環境保全などの持続可能な社会を形成しようとする背景がありました。そのこともあり、スウェーデンの成人は環境保全やそれに関わる科学技術などにとても高い関心を持ちます。日本でも持続可能な社会を考えた際に、独立活動のみではなく、異分野が連携し強固な取り組みを行う必要があると思っています。今後、様々な場での発表に加え、今以上に教育機関を始め様々な立場の方と連携を高め、それを実現したいと思います。 また、国内に限らず、海外の事例を紹介することで、新たなアイデアをそのネットワークの中で生み出していきたいと感じています。				

ふりがな 氏 名	たかやま ちほ 高山 千穂	都道府県	岡山県
所属/肩書	・ 岡山大学教育学部学校教育教員養成課程特別支援教育コース ・ 国立吉備青少年自然の家ボランティアスタッフ「ウーリーズ」一員		
私のESD活動	体験の風をおこす		

A photograph of a young woman with dark hair and bangs, smiling. She is wearing a dark graduation gown with a white bow at the collar. In the background, a blue banner with white Japanese text is visible, reading '山大学 入学式 大学院入学' (Yamaguchi University Graduation Ceremony Graduate School Admission).

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

今年の春に国立吉備青少年自然の家のボランティアスタッフに登録しました。5月にはボランティア養成研修の講義や演習を受けました。特に講義で「自然体験学習の意義」について考えたことが心に残っています。その講義では自然体験学習について2つの気づきがありました。まず、自然体験学習は自主性や協働性を高めるものだということです。子どもたちが、親から離れ電気器具が使えない自然の中で生活するには自分たちで考え行動を起こすことが求められます。またそのために仲間と協力する必要があり、仲間づくりやコミュニケーション能力も培われるといいます。2つ目に自然体験学習が自己発見の場であるということです。実際に体験することを通して自己潜在能力に気づくことができます。最近の若者は自己肯定感の低さが問題とされていますが、自然体験学習はその解決の糸口になるかもしれません。自然体験学習で得られるものは将来持続可能な社会を築くためには欠かせません。自主的に社会の現状課題を考え、仲間と意思疎通を図りながら行動していかなければならないからです。国立吉備青少年の家でのボランティア活動はこれからの社会を担う人材を育成する場だと思いました。

8月には、小学校中学年を対象にした3泊4日のキャンプに参加しました。14kmのフォートロングウォークや標高397mの鬼ノ城登山など厳しいプログラムを子どもたちと一緒に取り組みました。始めは自分のことで精いっぱいだった子どもたちが仲間のために頑張れるようになっていく姿を間近で見ることができ、子どもたちにとってもボランティアにとっても実り多き4日間となりました。

○「国立吉備青少年自然の家」 <https://www.facebook.com/kokuritsukibi/>

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？またESD全体（地域や日本国内、国際）の発展にどのように貢献したいと思いますか？

私は将来発達障害を持つ子どもにかかわる仕事がしたいと思っています。発達障害をもつ子どもは優れた才能をもっているにも関わらずそれを発揮できずにいます。それどころか周囲からの十分な理解が得られず自己肯定感特に低いのが現状です。これでは持続可能な社会を創る人材は育ちません。私は子どもたちにとって学校での評価が絶対視されていることが問題の原因になっていると考えます。そこで私は将来、子どもたちに自分の居場所は学校以外にもあるということが伝わる活動がしたいです。例えば、子どもたちの優れた記憶力や好きなことに対するこだわりを社会貢献に活かし、人から能力を認められる体験をたくさんさせてあげたいと考えます。そのために今できることとしては、国立吉備青少年自然の家でのボランティア活動に積極的に参加することです。キャンプ参加者の中には発達障害を持っている子もいるかもしれません。するとそのキャンプでは障害をもつ子とまたない子が協働して生活する機会が生まれます。キャンプの中での共同作業やコミュニケーションをとって障害の有無にかかわらず他者理解力をつけさせたいです。また、野外活動をとって学校にいないだけでは気づけなかった自分の能力を発見できるかもしれません。私はボランティアスタッフとして、その能力に気づきみんなで認め合える環境を作り、子どもたちに成功体験をさせてあげたいと考えます。

ふりがな 氏 名	たきみや さおり	都道府県	神奈川県	
	瀧宮 紗央里			
所属/肩書	横浜市立幸ヶ谷小学校 教諭			
私のESD活動	地域の特産品で、地域・日本・世界を元気に！ ごまを通して、「健康」について考えよう			

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

『デジタルデバイド(情報格差)の改善による高齢者の生涯学習の促進』

前職の通信会社において、インターネットによる高齢者の生涯学習の推進に向け、高齢者向けのインターネット講座やサポートサービスを新規開発・提供した。昨今、インターネットが急速に普及し、日本のインターネット利用率は80%を超えている。一方で、「難しいから、どうせ自分にはわからない」、と考える高齢者は依然として多く、60歳以上のインターネット利用率は急激に下がり、インターネットのメリットを享受できていない高齢者が多く存在する。そこで、顧客層が比較的高齢である日本橋三越と提携し、店舗内に様々な文化を体験できる体験型カフェスペースを新設。カフェ内では、アート、食、音楽等、多岐に渡る文化を紹介し、高齢者は興味の湧くものを店舗スタッフのサポートを得ながらインターネットで自ら調べる、という流れを作り出した。

結果、2014年のカフェオープン以降、あらゆる講座が継続的に開催され、多くの高齢者の学びの場となっている。成果として、従来の生涯学習は、学びたいという意思のある学習者が、大学や地域施設等に自ら足を運んで学習を進める流れが多い中、本取り組みは「カフェで休もう」というように、学習を目的としていない人に、体験しながら学習意欲を持たせ、そしてインターネットを通じて自ら学ぶ方法を知り、自然と学習者へと変容する、という新たな流れを作り出すことができた。

○「日本橋三越 はじまりのカフェ」 <http://hajimarinocafe.jp/>

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？またESD全体（地域や日本国内、国際）の発展にどのように貢献したいと思いますか？

『ごまから世界へ。食料から見る世界の貧富格差と改善に向けて』

学区内に、創業150年以上の歴史を持つごま油工場があり、そのごま油は、横浜市神奈川区の名産にもなっている。化学的製法を一切しておらず、職人が焙煎、ろ過をし、手間をかけて作っている。そのため、一般的なごま油より高価であるが、そのおいしさは定評があり、子ども達にとって愛着のある食品となっている。私は、現在、五年生を担当しており、総合的な学習の時間において、子どもとともにこのごま油をトリガーに世界の貧富格差を学び、改善に向けて私たちにできることは何かを考えている。子どもたちは、ごまについて知るため、ごま油工場の社長に講演を依頼し、ごまがほぼ輸入に頼っていること、原産国はアフリカ等貧しい国が多いことを知った。そして、原産国の苦勞を知るため、ごまの栽培に取り組んでいる。今後は、ごまの流通や、なぜ貧富の差が生まれるのか原因を調べ、私たちにごまを届けてくれている原産国が豊かになるために何ができるのか、考え、行動していきたいと考えている。

ESD全体の発展に向けて、今回のごまに関わる活動等、ESDの視点をふまえた活動のモデルケースを作り、展開していくことが、小学校教諭としてできる最大の貢献だと考えている。まずは、研究授業等で自らの授業を様々な人の目に見てもらい、洗練させ、より多くの人が実践できる汎用的な型へと落とし込んでいきたい。

ふりがな 氏 名	たにがき とおる 谷垣 徹	都道府県 奈良県	
所属/肩書	・奈良教育大学 ユネスコクラブ ・奈良教育大学 学生企画活動支援事業「ESD 実践勉強会」代表		
私のESD活動	「持続可能な社会って？私たちには何ができる？」を小中学生と一緒に考える ESD 子どもキャンプの実施		

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

私が行っているESD活動として、『ESD子どもキャンプ』と『ESD実践勉強会』の2つを取り上げます。

『ESD子どもキャンプ』とは、奈良市内のユネスコスクールなどから小中学生を招き、大学キャンパスや周辺の地域をフィールドとして「ESDを体験的に学ぶ」、1泊2日のキャンプです。企画立案の段階から当日の運営までを学生の手で行い、今年度で第5回を迎えました。今年度は「防災」をテーマとして取り上げ、大学周辺の地域のフィールドワークや、防災マップを作成する活動などを行いました。自分の足で歩いて「地域を見つめる目」を獲得し、防災に対する関心を高め、防災への取り組みに対する当事者意識の獲得を狙いとしてしました。毎年このように一つのテーマを設定し、子どもたちと共に持続可能な社会とは何かを考え、またその社会づくりの担い手としての意識を育てています。私はこの活動に3年間継続して関わり、ESDの観点からこの企画を創り上げています。

『ESD実践勉強会』とは、学生へのESDのさらなる普及とユース世代のネットワーク形成に寄与することを目的とし、昨年度立ち上げた事業です。行政や大学主導のプログラムではなく、学生が主体となって企画立案を行っているという点が評価され、2年目を迎えました。大学内にとどまらず、全国でESD・ユネスコ活動に取り組む幅広い団体が参加し、つながりを築くことができました。昨年度はアフリカ開発経済学をテーマとしたESDアクティビティや、野外活動を通じた宿泊型ESD研修会を実施しました。私は今年度この事業の代表として関わり、さらに広いユース世代との活動交流を行い、事業を発展させたいと考えています。

○「奈良ESDコンソーシアム」 <http://jisedai.nara-edu.ac.jp/open/esd/>

○「奈良教育大学ユネスコクラブ」 <http://nueunescoclub.web.fc2.com/>

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？またESD全体（地域や日本国内、国際）の発展にどのように貢献したいと思いますか？

私は今後のESD活動について、以下の2つの展望を持っています。1つ目は、ESD実践勉強会の事業拡大です。ESD実践勉強会は昨年度立ち上げた事業で、奈良教育大学ほか、全国でESD・ユネスコ活動に取り組む様々な団体からの参加をもって開催することができました。今年度はその規模をより拡大し、より広いユース世代との活動交流を行い、ESDを共に学び実践する者のプラットフォームづくりをしたいと考えています。この事業を通して、ESDをより多く学生に普及させ、そしてESDに取り組む実践者の視野を広げ、ESDを発展させていきたいと考えています。2つ目は、自分自身の活動の分野を広げることです。私は今まで、環境や防災、文化遺産などを切り口にESDを探求し実践してきました。しかし、ESDについて学ぶ中で、他の分野を開拓してESDの視野をさらに広げたいと思い、農山村地域における地域おこしに関心を持つようになりました。兵庫県の農山村地域の観光協会と連携して、現地の人々と関わりながら、地域活性化及び地域の特色や伝統文化の発信に取り組んでいます。

私は将来教員を志しています。学生時代に培ったESDの学びを生かして、次世代を担う子どもたちにESDを実践していきたいと考えています。そのために学生時代にESDを実践している様々な人と出会い、自らの視野を広げ、ESDを探求し続けたいと思っています。

ふりがな 氏 名	ながお けんたろう 長尾 健太郎	都道府県	愛知県	
所属/肩書	愛知県立みあい特別支援学校 教諭 (ESD部主任/校務分掌)			
私のESD活動	学校内でESDが理解・実践されるよう、ESD活動の組織化を図ろうと取り組み始めたばかりです			
活動の概要 (特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください)				
みあい特別支援学校は、2014年にユネスコスクールに加盟し、テーマ「共生社会の実現」に向けて全校で三つの活動に取り組んでいます。一つ目は「自分の力を発揮する活動」、二つ目は「社会に参加する活動」、三つ目は「社会に役立つ活動」です。 「自分の力を発揮する活動」では、小学部から児童生徒それぞれの障害特性に合わせた課題設定と指導方法により、個々の力を発揮する土台を築き、継続的に学習を積み上げることで主体的な行動ができる児童生徒を目指しています。 「社会に参加する活動」では、小学部と中学部において学校間交流や居住地交流に取り組んでいます。自己紹介やゲームを一緒に行い、お互いの理解を深めるよい機会となっています。高等部では、様々な場面で交流活動を展開しています。作業学習では、園芸班が近所の老人会の方々とさつまいもの苗植え、幼稚園児を招いて芋ほり交流を行ったり、地域のボランティアの方々と学校花壇の整備をしたりしています。保健体育の授業では、老人会の方を講師に招いてグラウンドゴルフを教えていただいたり、美術では、プロのカメラマンの方に写真の撮り方を教えていただいたりしています。また、校外学習を数多く行い、児童生徒が地域で活動することを重視しています。駅周辺での挨拶運動をしたり近隣の学校の文化祭に参加したりして交流を深めています。さらに今年度はアートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクトにも参加することができ、ジャマイカの学校と交流をしていく予定です。 「社会に役立つ活動」では、高等部生徒会が中心となりエコキャップ活動を全校で取り組んでいます。また、地域の施設での清掃活動にも取り組んでいます。				
○「愛知県立みあい特別支援学校」 http://www.miai-sh.aichi-c.ed.jp/pg395.html				
ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？またESD全体(地域や日本国内、国際)の発展にどのように貢献したいと思いますか？				
現在の取組の成果として二つのことが挙げられます。一つ目は、積極的な体験活動によっていろいろな方々と触れ合い社会体験の機会が増えてきました。それによって児童生徒の中にいろいろなことに自分から挑戦してみようという姿勢がみられてきました。二つ目は、学校内の日常的な清掃活動が地域の清掃活動へと広がってきたように、学校内の活動から学校外の活動へと広がりがみられ、児童生徒の自立や社会貢献へのつながりが強まってきました。 しかし、職員へのESD活動の啓発という面では、まだ課題があると感じています。外部講師を招いて現職研修を開催し、組織内の意識向上とともに、組織活動の定着を図っていくことが重要だと感じています。その上で現在ある活動をさらに充実させ、新しい活動を取り入れ発展させていきたいです。 また、現在、特別支援学校でユネスコスクールに加盟している学校は全国に7校あります。各校の取組や課題などの情報交換を行い、今後の連携を深められるような機会をもちたいと考え、ESD コンソーシアム愛知の中部大学宮川秀俊教授の御協力を得て、今年の8月末に「多文化共生のための全国特別支援学校ESDフォーラム」を開催します。全国の特別支援学校のESD活動の展開に寄与したいと考えています。				

ふりがな氏名	なかに えいさく 中谷 栄作	都道府県	和歌山県	
所属/肩書	・橋本市立あやの台小学校 教諭（ESD主任） ・和歌山県シニアリーダーズクラブ HOPE 会員			
私のESD活動	ものごとを自分事として考え行動できる「未来の大人」の育成を、小学校現場や社会教育現場で進めています			
活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）				
小学校の総合的な学習の時間にエコマートを行っています。子ども達で会社を組織し、社長・会計・広報部長なども設定し、実際に理念の策定、商品開発・販売、利益の使い道の決定まで行うものです。 会社が取り扱う商品は、まず無農薬栽培をした有機野菜。子どもたちが地域の農家さんたちに指導していただきながら、朝夕自発的に農業に取り組みました。食育とも組み合わせ、貧困問題について調べたり、生ゴミの多さから食べ残しゼロを呼びかけたり、堆肥化に取り組んだりしています。年度末には郷土料理を教えてもらい、自分たちの育てた野菜を使ってお世話になった方々に振る舞い、地域とのつながりも生まれています。 ほかにも、リサイクル手芸品（ペーパービーズを使ったアクセサリや、傘の布を使ったエコバッグ）を扱う会社や、リサイクル・リペア木工品（廃材や間伐材からできた写真立てや、壊れたイスを修理したもの）を扱う会社を作ってきました。2013年度～2015年度まで3年間前任校で取り組み、3年間で15万円を売り上げ、ユニセフや緑の募金に寄付してきました。今年度から赴任した学校でも、すでに販売活動に取り組み始めています。 いずれの活動においても、製作・販売・発信の場で、たくさんの地域の方々と交流し、年を経るごとにサポーターは増えていき、食農プロジェクトとして、学校をサポートするチームもでき、これから地域の力で成長していくカリキュラムになっています。子どもたちにおいても、学習したことを凝縮ポートフォリオにまとめ、校内で発表したり、いろいろな場で地球環境を守るためにできることを多くの人に発信したりしてきました。				
○「橋本市立あやの台小学」 http://www10.schoolweb.ne.jp/weblog/index.php?id=hashimoto34 ○「橋本市立紀見小学校」 http://www10.schoolweb.ne.jp/weblog/index.php?id=hashimoto01&type=2&date=20160331&category_id=670				
ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？またESD全体（地域や日本国内、国際）の発展にどのように貢献したいと思いますか？				
(1)他府県の学校との交流・・・他の学校と自分自身、そして子ども同士が交流することで、自分たちのしていることを客観的にとらえる機会を増やし、活動の中身を深めていきたいです。（現在熊本市内の学校と交流し、防災教育を進めています。） (2)未来の大人である、今の子どもたち。その受け皿となる社会を理解しながら、社会をデザインしていく役割を担う・・・子どもたちが将来に課題意識をもちながら、希望をもつ。これこそがESDを進めていくうえで目指すべき児童像であるように思っています。そうした希望（自信や喜びなど）を強く感じられるような学びを、社会とつなげながら実現していくために、私自身が社会の現状や動向について理解を深めたいと思っています。そのために他の職種の方と連絡をとって、いろんな意見をもらうようにしていますし、保護者の方々に忌憚のない意見を言ってもらえる場をつくり、これからも教育実践を進めていきます。そうして社会を構成する大人との対話を通して、社会を子どもにとって身近で素敵なものにしたいと思っています。 (3)エコマートの普及と推進・・・子どもたちがお金の価値を知ること、この消費社会にとって大切なことであるし、働く体験を通して、勤労や社会貢献に対する意欲を高めることも重要だと考えています。橋本市内でエコマート（起業家教育＋環境教育＋国際理解教育）を行うように、活動の良さや方法について発信していきたいと考えています。				

ふりがな 氏 名	なかとう ひろと 中藤 寛人	都道府県	岡山県
所属/肩書	岡山大学経済学部経済学科		
私のESD活動	・ 国立吉備青年の家にてボランティア（青少年教育） ・ 岡山プレーパークのお手伝い（青少年教育、地域活性）		



活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

私は、現在「吉備青年の家」でボランティアを行っております。自然体験活動の減少に伴い、それらを提供する立場としてボランティアとして関わらせていただいております。例えば、今年の6月には、吉備での事業の一つである「アストロキャンプ」に参加させていただきました。子どもがグループの中で、星の学習をしながら成長する姿を見届けました。私は、女の子が1年生から6年生まで1人ずついる班を担当しました。どうしても班のグループワークに参加しない3年生の女の子を、どのように支援という形でグループに参加させるかに悩みました。それとなく6年生の班長さんに伝えることで、自然と6人全員が一人一人を気遣い、グループの一員として活動しだした時には、子どもの成長が感じられ、感動しました。ここで学びを得たのは、何も子どもだけではありません。指導をするのではなく、子ども達に悟らせる形、つまり支援という形で子ども達だけで成長してもらうことの大切さ、また支援には様々な形があり、正解も不正解もないということを私は学びました。実際、班長さんにそれとなく今後どうしたら良いかを伝えた行為は、もしかしたら干渉しすぎの行為であり、班長さんにもっと何を自身がすべきかを考える時間を与えれば良かったのかもしれない。

今年の8月には、同じく吉備の事業である桃太郎キャンプにも参加する予定であり、また現在は来年に向け、吉備の事業を1から作り上げていく活動もしております。これらの事業でも、ボランティアの役割は支援を通じて子ども達の成長を促すことです。アストロキャンプで得た学びを大切に、支援を通じて今後の活動にも貢献していきます。

○「国立吉備青少年自然の家」 <http://kibi.niye.go.jp/>

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？またESD全体（地域や日本国内、国際）の発展にどのように貢献したいと思いますか？

地域活性と青少年教育を融合させた活動です。社会人ではなく、大学生であるからこそできる活動を行ないたいです。例えば、大学内に中学年以上の小学生を招待し、岡山の魅力を伝える発表をしてもらう活動をしたいです。まずこの活動を行うには、子ども達に岡山の魅力について知ってもらわなければなりません。そこで、私は子ども達に体験活動を通じて岡山の歴史について知識を深めてもらいたいと考えています。例えば、岡山県の玉島という地域には、玉島味噌醤油という100年以上の歴史のある企業があります。その企業の協力の下、子ども達に玉島の歴史を学びながら、実際に味噌作りを体験してもらい、地元について興味を持つきっかけを提供したいです。その上で、子ども達自身で感じた地元の魅力を、子ども達自身の言葉で大学生に伝える機会も提供したいと思います。この過程において、対象者理解を深めることなどを目的としグループワーク等を行なうことで、青少年教育を実施したいです。私自身が地域活性化等の大切さを身の回りの人々に訴えかけてもその効果は小さく、それよりも純粋な子ども達はその大切さを訴えかけた方がきっと効果は大きいと私は考えています。子ども達の活動を通じて、地元に興味を持ってくれる大学生が増えると、それは地域活性化の第一歩になると思います。そういった意味でも、このような地域活性と青少年教育を融合した活動を、今後展開していきたいです。

ふりがな 氏 名	なかはら よしむね	都道府県	東京都	
	中原 由棟			
所属/肩書	・ 第5回謝謝台灣活動実行委員会 運営幹部 ・ 大学院生			
私のESD活動	台湾での野外イベントを通じて、東北復興の現状や震災時に台湾人から受けた支援への感謝を伝えている			

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

私は、台湾に交換留学中に、東北復興の現状や震災時に台湾人から受けた多大なる義捐金に対する謝意を表すためのイベントを開催するための学生団体である「第五回謝謝台湾活動実行委員会」で幹部として活動しておりました。弊団体は2016年でちょうど5年目を迎える団体です。

第五回の具体的な主な活動としては、①東北現状報告②被災者による講演③折鶴日台絆シート作製があります。①東北現状報告に関しては、イベント前、我々メンバーの一部が自ら東北を訪れ、自分の目で東北の現状を確認し、台湾の支援がどういった形で東北に届いているのか、そこで見たもの、感じたものを当日イベントの来場者に写真や文章で伝えました。実際、被災した南三陸町の病院が台湾の義援金22億円で復旧されました。

②被災者による講演に関して、被災者が台湾に感謝を伝えるため、震災当時の実体験、感謝の想いを来場者の皆様に伝えました。例えば、震災後に出版された「震災に関する絵本」の読み聞かせを通して、減災と防災、そして家族の大切さを知ってもらいました。

そして、特に私が先駆的なものとするのは、③折鶴日台絆シート作製であります。それは、イベント当日、来場者の方に東北への応援メッセージを書いた折り鶴を制作し、それらを日台の地図がハートの絆で結ばれているシートの上に貼ってもらい「絆シート」を作る活動を行いました。

成果としては、アンケート結果からも分かるのが、多くの来場者に東北の現状を知ってもらえたと同時に我々日本人の謝意を台湾にいる皆様に伝えられたと思います。更には、NHKなどの日系メディアや中央通信社などの中華系メディアでも我々の活動が言及されました。

○「日台・心の絆」謝謝台湾 Facebook」 <https://www.facebook.com/arigatoutaiwan/>

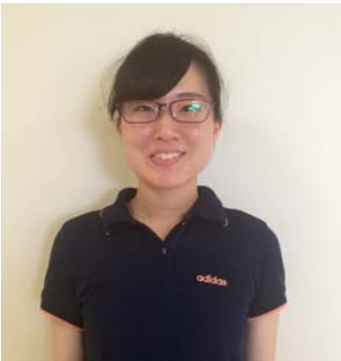
○「第5回謝謝台湾！日台・心の絆 感謝動画」 <https://www.youtube.com/watch?v=tpbHc2PkSjk&feature=youtu.be>

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？またESD全体（地域や日本国内、国際）の発展にどのように貢献したいと思いますか？

今後の展開活動としては、第一に、次世代へのバトンタッチである。上記の学生団体の第六期生に、きちんと我々第五回時の活動の内容、工夫、成功、失敗したこと、そして反省点などを共有して、次世代に良い形でバトンタッチを行い、繋げた後も私はOBとして、彼ら彼女らの活動に今後ともアドバイスをしたいと考える。一方で、これに関連して、留学中に知り合った日本で台湾と震災をテーマとして活動している方と知り合う機会があったので、その方達などと協力して、防災の重要性の普及について取り組みたいと考える。

第二に、農業をテーマにして、東北復興に少しでも貢献したいと考える。具体的には、東北の特産物の美味しさと、特に安全性を世界に発信したい。なぜならば、世界では特に被災地県からの農産物に対する輸入規制が今だに厳しいが、私はそれは風評被害が大きく影響していると考えからである。従って、まずは日本への発信として、友達が所属している東北の名産物の紹介を通じて東北の農産物の安全性を伝えるグループに参画したいと考えている。

第三に、私は現在、卒業後に教育学の修士課程に進み、農業と教育を通じた地域活性化を研究したいと考えている。というのは、防災機能を含む多面的機能を有し、そして地域振興に密接な農業では、現在、農業者数の減少・高齢化が進み、その解決方法として、教育という新たなアプローチから取り組みたいと考えるからである。

ふりがな 氏 名	ながやま なるか 長山 愛果	都道府県	岡山県	
所属/肩書	岡山県立早島支援学校中学部 教諭			
私のESD活動	障害のある子どもたちも含め、すべての人が参加できる 地域コミュニティを活かした交流・共同学習			

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

①ESD 活動「ユネスコスクール世界大会高校生フォーラム」大学生ボランティアとして高校生ボランティアサポート（2012年11月～）

成果：大学生ボランティアが1から ESD とは何かを学び、世界大会本番に向けて幾度もの準備セミナーや各班（機械・PC、運営など）に分かれて高校生ボランティアが ESD を実践するための学びを深めサポートし、世界大会を行いました。機械・PC 班では「機械・PCを通じて ESD の実践、フォーラムのサポート」をテーマにして取り組みました。また高校生フォーラム終了後も「岡山県ユネスコスクール高等学校ネットワーク実践交流会」の運営を行いました。

②ESD 活動「岡山市主催：ESDコーディネーター養成講座」に参加（2015年11月～2016年1月）

成果：ESD の根本や ESD 的な学習講座とは何かを、公民館職員や自然の家職員など様々な立場の人と意見を交わしながら学習講座を考えることができました。『外国の方や発達障害のある人々と地域で共に生きるためには？』をテーマとして異文化理解と多文化共生の分野学習講座を企画、第1回「食を通して考えよう。～誰もが生きやすい社会とは～」を友人や知り合いの外国人を交え開講することができました。

③ESD 活動「岡山県内の特別支援学校の教師として「交流・ボランティア活動」

成果：一般中学校や学校外の人と障害のある生徒がどのように社会と関わっていくかを考え、居住地校交流や地元中学校との交流教育や演奏会などの企画運営をしています。いままでは居住地校交流だけであったが今年度から支援学校近くの中学校との交流教育活動を目指して取り組んでいます。

○「ユネスコスクール世界大会高校生フォーラム」 http://www.city.okayama.jp/esd/esd_00044.html

○「ESDコーディネーター養成講座」 <http://www.okayama-tbox.jp/esd/pages/5269>

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？またESD全体（地域や日本国内、国際）の発展にどのように貢献したいと思いますか？

今後は、ESD 活動を更に深めるために学校外のような分野の人と協力をして教育活動をしていきたいと考えています。まずは交流教育の分野で、公民館や他の学校などの組織と協力をして地域の文化を学ぶ活動や交流学習活動を進めていくことで、子どもも大人も未来を作っていく主人公であることを考えられるような学習活動を考えていきたいです。また ESD 全体については、教師としての仕事も含めて今自分の生きているコミュニティから ESD を広め、ESD の活動に巻き込んでいきたいです。私たちユースの世代が様々な世代をつなぐ架け橋になり地域の活性化やESDの取組を行うことが岡山や日本の発展のためにできることだと考えています。

ふりがな 氏 名	なとり りょうすけ 名取 亮介	都道府県 長野県	
所属/肩書	・長野県喬木村教育委員会 ICT 支援員 ・長野ユネスコ協会青年部つながる		
私のESD活動	教育における ICT 活用を広め、子どもたちが未来を生き抜くためのスキルを獲得するサポートをしている		

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

長野県喬木村教育委員会の ICT 支援員として勤め、学校教育における ICT（情報通信技術）活用をサポートしている。社会においては技術革新が著しく、生活の中で欠かせないものとなっているはずの ICT だが、学校教育においては十分に利活用されているとはいえない。昨今、国としても ICT の積極的な活用を促している。正しく情報を読み取り、発信し、さらには創造していくことが求められる現代において、ICT 機器を扱うスキルは、もはや「よりよく生きる」ための余剰のスキルではなく、「生き抜く」ための一般的なスキルへと変容している。子どもたちには、社会を「生き抜く」だけでなく、多様な他者と協働して新たな価値を創造していくことが求められている。ICT は人種や国境を越え、すべての人が等しくコミュニケーションをとれる可能性を秘めている、まさにこれからの教育の本質に関わる一面を持っている。

職についてまだ半年ほど、先生方が ICT 機器を使う際の操作サポートやトラブル対応を超え、授業設計の手伝いや授業アシスタントを依頼されることも増えてきた。まだ短期間の実践ではあるが、ICT を導入したことで教育のスタイルに変化が起き、子供たちのコミュニケーション能力が上がっていると実感する先生もいる。ICT はツールであり、目的はその先にある。私はこのツールを使いこなすという視点から教育を捉えなおすことができる ICT 支援員という職業に、機器操作サポートを超えた、未来を生き抜く子どもたちがよりよい社会を創造していけるような ESD の視点に立った学びをサポートするという可能性を見出し、実践している。

○「長野県喬木村の ICT 活用教育に関する取組」 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/1369517.htm 配布資料2

○「長野県喬木村と上げられた記事」 <http://ict-eneus.net/2015/12/21takagi/>

ESD 活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？また ESD 全体（地域や日本国内、国際）の発展にどのように貢献したいと思いますか？

自らの職務を通して、総合的な観点からみた教育のよりよい発展・創造に携わりたい。職業上は公教育に携わる立場であるが、ライフワークとして子どもたちの主体的で協働的な、自由な学びを実現できるようなノンフォーマルな学びの場も創りたい。ICT は可能性を秘めるひとつのツールに過ぎず、その利用にばかり目が行ってしまえば本末転倒になってしまう。多様な人とのコミュニケーションや、雄大な自然の中で活動する経験などの原体験を通してこそ、ツールとしての ICT の利活用につながる。しかし、そのような活動すべてを公教育の範囲でカバーするのは不可能に近い。ときには自然とふれあいながら全力で遊び、ときには ICT をつかいこなし世界中の人と対話したりするような総合的な学びを提供し、公教育と相乗的に子どもの学びを高めていける「教育」の場が必要だと考えている。

学校教育の学びの質を上げていくサポートをする一方で、ノンフォーマルな場で子どもが自由な学びを発揮することを保証していける環境をつくることで、ESD が目指すような「持続可能な社会づくりの担い手」を育成することに貢献する。

ふりがな 氏 名	はせがわ たくみ 長谷川 拓海	都道府県	大分県
所属/肩書	・ Wake Up Japan / Oita 共同代表 ・ 立命館アジア太平洋大学国際経営学部		
私のESD活動	県内の様々なジャンルを混ざり合わせて、若者への都市部と変わらない機会の提供を模索しています		



活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

私はユネスコスクールである京都外大西高等学校出身であり、2014年11月5日から8日にかけて岡山で行われたユネスコスクール世界大会に関西地区代表メンバーとして出席しました。そこでは日本各地、世界各地からの参加者の刺激的な考え方や行動を知り、今でも活動するようになりました。京都外大西高等学校内ではユネスコクラブという部活が作られ、そこでは主に環境教育を学内で行っていました。一つの取り組みとして文化祭(学園祭)でのリユース食器導入を行いました。この取り組みは関西の高等学校内で生徒主体での取り組みは初めてでした。ユネスコクラブが主体となり、生徒会と教員はもちろん、京都市右京区役所のエコステーションのアドバイスの元、区役所から助成金も頂き、約一年間の企画の後、実行しました。結果としては昨年より、燃えるゴミ4分の1ほど、缶とペットボトルは2分の1ほどに減りました。リユース食器を文化祭で導入することで一番得た効果は生徒の無意識下での行動の変化です。文化祭が行われた一日間、分別に気を使わなければならないので少しではあるが癖になった人もいました。あくまでも私の観察ですが、翌日からゴミ箱ごとにゴミがしっかり分かれるようになりました。この企画は後輩に受け継がれ、今年の文化祭でもするようです。

Wake Up Oitaとしては今春に立ち上げたばかりで活動実績はほとんどありません。一つの事業として交流会を開いています。大学内で様々な出身や学部、サークル、学年の人を集めて参加者にとって身近なトピック(自分の夢やボランティアなど)について話すことにより参加者の想いを共有し、活動に移しやすい環境を作っています。

○「京都外大西高等学校ユネスコスクールページ「KGN UNESCO JOURNAL」 <https://kgnunesco.wordpress.com/>

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？またESD全体(地域や日本国内、国際)の発展にどのように貢献したいと思いますか？

私は大分県を初めとする九州で活動を広げていきたいです。大分県は「うつくし作戦『ESD 事業』」を進めています。この事業の一環としてユネスコスクール認定高等学校を平成27年度より毎年3校ずつ増やしていこうとしています。しかし実際はあまり進められていないという現状があります。そこで、諸 NPO に協力していただきながら大分県教育庁や環境庁に企画を持ち込み、出前授業として50分間のなかでグローバル人材育成のワークショップを行おうとしています。自分の知らない世界で起きている問題や出来事を知ってもらい、考えてもらいます。そして生徒らの心に「何かそのために行動したい」というモヤモヤしたものを植え付けたいです。そのワークショップのアフターケアとしてボランティアを紹介することで彼らのモヤモヤを明確なものにしていきたいです。ボランティアを紹介するために地元 NPO と協力していきたいです。

私は関西地方のユネスコスクールとのコネクションがあるので、関西から大分/九州へ ESD のモデルを輸入したいとも考えています。例えば私の母校で行ったリユース食器を大分県内の高校でも導入したり、大阪の高校で行われている途上国でのボランティアなどです。

以上を行うことで、大分県民もしくは九州地方全体に ESD の存在を認識してもらい、少しでも多くの日本、そして世界を変えるグローバル人材を生み出していきたいです。

ふりがな 氏 名	はやかわ ゆか 早川 有香	都道府県	神奈川県	
所属/肩書	- 東京工業大学大学院社会理工学研究科博士後期課程（日本学術振興会特別研究員） - 横浜市立大学／大正大学非常勤講師			
私のESD活動	教育的アプローチによる持続可能な発展推進に向けた仲間づくり			

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

1. 研究活動

「ESD の推進及び質の向上に寄与すること」を常に意識しながら、研究活動を行ってきました。たとえば、大学における ESD モデルプログラムの作成に携わった際、自身の研究で得た、「欧州の大学では大学教員と学生が学び合う形で ESD に関する授業を行っている」という調査結果に基づき、日本の大学にも導入可能な「教員と学生の学び合い」の方法を提案しました。また、学校のみならず地域など実社会のステークホルダーと密に連携しながら推進されることが求められる中で、ESD におけるステークホルダー連携の発展に寄与すべく、現在はマルチステークホルダーによる有機的な連携メカニズムに関する研究を行っています。

2. 教育活動

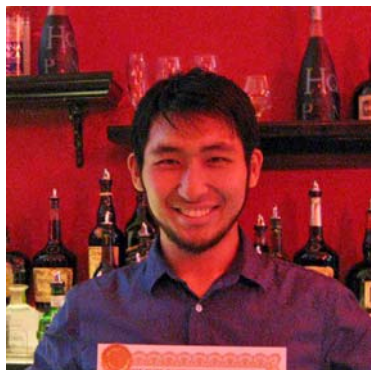
持続可能な発展(SD)とは、「豊かさとは何か」について、様々な人と議論しながら、学びあっていく学習のプロセスこそが ESD であり、それによってそれぞれが SD に関する価値観を形成し、行動していくことが、ESD の目指すものであると考えています。大学で担当している授業では、アクティブ・ラーニングを基調として、学生が主体的に学ぶことのできる授業づくりに努めています。授業効果と受講生の行動変容との関連性についても分析をしながら、SD のための行動変容につながる ESD のあり方を模索しています。また、ESD 実践の試みとして、2015 年に国連総会で採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」を教材として活用しながら、一人一人がその実施主体であることを認識するとともに、その実現に向けてどんな貢献ができるのかという考えをもつあるいは行動を喚起するきっかけとして位置づけ、授業に取り入れています。

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？またESD全体（地域や日本国内、国際）の発展にどのように貢献したいと思いますか？

ESD に関する研究及び教育活動をする中で、「より効果的な ESD」を日々模索しています。社会的課題としっかりと向き合いながら、解決のための方策について考えることが、ESD の企図する人材育成なのではないかと思っています。また、ESD をより普及させていくためには、様々なステークホルダーとともに、持続可能な発展(SD)の実現に向けた教育的アプローチに価値を見出しながら、ESD を実施していく協働型 ESD を広めていくことが重要であると思っています。今後も研究・教育活動を通じて、SD についてともに考え、行動する仲間を増やしていくことで、ESD の社会的価値の向上に貢献していきたいと思っています。

ふりがな 氏 名	ひがし みずき 東 瑞希	都道府県	鹿児島	
所属/肩書	鹿児島大学大学院教育学研究科 理数・環境系コース 木材加工学研究室			
私のESD活動	誰もが文化的生活を営むことによって環境保全に繋る、 需要と供給が釣り合う豊かな循環型社会を目指したい			
活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）				
持続可能な社会に向け、地下資源の節約や国外における森林伐採の抑制、また地上での炭素保管庫であり、国土を支える役目を担う森林の保全が求められています。つまり、地元の人工林材の活用が望まれている今、その木材の需要を増やすことが最優先されると考えます。わたしたちの研究室では、木材やその利用の意義について興味を持ってもらい、「木材の良さを活かしたい」という思考に導く「木育」活動の提案と実践を行っております。 下記 URL は地元の県勢番組において、県内の木材活用事例のひとつとして鹿児島大学附属幼稚園における木育イベントを取りあげていただいたときの動画です。子どもたちが木材で遊び、ものづくりをする楽しさを友達と共有し、木材のお土産と木育推進のカードが保護者に伝わることにより、木材利用について考える人々が増えると考えています。 去年私が卒業論文として取り組んだのは『ソーシャルデザインとしての「木育」の導入 -木育パークレットの設計・製作-』です。パークレットという、サンフランシスコ発祥の路上公園を参考に、持続可能な社会に必要なコミュニティの創出を目標とする、アンケートやワークショップの手法を用いた場づくりを考案しました。しかし個人で取り組んだこともあり、学内の農園における一対のベンチの製作・設置に留まりました。2016 年 3 月に開催された第 66 回日本木材学会大会にて、初めてポスター発表を行いました。以後活動を継続できなかったことが悔やまれます。同学会において、名古屋で類似の活動が成功している様子を伺うことができたが、より明確な仕組みと準備、そして周囲の協力を得て実践すべきであったと痛感しています。				
○南日本放送「ふるさとかごしま」-「かごしま材」をもっと身近に！- 2016 年 6 月 4 日放送動画 https://www.youtube.com/watch?v=iiaJ5c-yiNI&feature=youtu.be				
ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？またESD全体（地域や日本国内、国際）の発展にどのように貢献したいと思いますか？				
木材資源確保のためにあったはずの林業は、その需要が激減してしまったために、荒れた土壌の管理となっているように感じます。また、生活の中で必要なものはなんでも安価で入手できるため、ものづくりの機会が減っています。このままでは日本の豊富な森林資源は無駄になってしまい、人々は自らの手で新しいものを作り出せることを忘れてしまいます。 修士論文においては『学内における ESD ルームの設置（仮）』と題し、木育を中心とした環境学習を行うための特別教室を構想し、義務教育である小中学校において導入できないかを検討しています。様々な分野と持続可能な社会とを、関連して考えることができ、生徒が年々減少しているものづくりの時間を自主的に補うことができるような、学校内にある憩いの場を提案していくことが目標です。まずは大学内での実現に挑戦します。 将来は、各地域にある昔ながらのものづくりの技術や、新しい取り組みについての周知・継承が行われ、さらに地域の素材を用いて表現活動を行うことができるような場に携わりたいと考えております。誰もが日常生活を豊かにすることを意識し、かつ自然環境とのつながりを意識することによって、循環型の持続可能な社会を実現させたいです。そのための知識や技能は未だ持たないため、まず県内外での取り組みを知り、地元を始め他県や国外における環境や歴史、技術の違いについて学ぶべきだと考えています。				

ふりがな 氏 名	ふじい しんじろう 藤井 新次郎	都道府県	愛知県	
所属/肩書	・名古屋国際中学校高等学校 教諭(理科 国際交流担当) ・名古屋市環境サポーター			
私のESD活動	多様な文化を持つ人々が自然と共生できるグローバル社会の実現のため、生徒と共にチャレンジしています			
活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）				
私は、これまで主に学校教育の現場で、ESD 活動とその普及に努めてきた。勤務する中高一貫校では、理科の教員として、中高生を対象に教科教育における ESD に関わる単元でのフィールドワークや発展学習を行っている。課外活動では、希望者を募り、フェアトレードやカーボンオフセット、減災といった概念を組み込んだ取り組みを行っている。民間企業と連携を積極的に行い、活動の成果物として商品開発を共同で行っている。その商品を用いて、生徒主体で配布・販売を行うことで、フェアトレードやカーボンオフセット、減災に関する啓蒙・普及活動を行っている。例えば、私たちの活動の中心である愛知県は、製造業が盛んなため、外国人が多く居留している。しかし、日本の看板やサインの多くは日本語で書かれており、多言語には対応していないため、災害時には外国人の多くが災害弱者となることが想定される。そこで、私たちは開発した商品のパッケージに多言語を使ったフレーズや説明を入れ、外国人が多く訪れる場所を中心に配布し、外国人に対して防災・減災の意識を高めてもらう取り組みを行っている。また、学校が一時避難場所となっているため、地域の消防署と連携して、生徒の救命講習の受講を推進し、受講者数を増やしている。また、名古屋市が派遣する市民ボランティア「環境サポーター」として、大学院で環境科学を専攻していた経験を活かし、保育園や幼稚園、小学校を対象に、環境学習プログラムを実施している。寸劇やゲーム形式のアクティビティを通して、身の回りの物の成り立ちやごみの分別、環境負荷について、楽しく解説しています。				
○「名古屋国際中学校高等学校」 http://www.nihs.ed.jp/ ○「エコの環スクール」 http://www.eco-1-gp.jp/eco-no-wa-school.html				
ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？またESD全体（地域や日本国内、国際）の発展にどのように貢献したいと思いますか？				
現在は愛知県を中心として活動しているが、今後は生徒が主体となって他県や海外へ赴いて、直接現地の人々と交流でき継続的に活動できるプログラムを構築したいと考えている。愛知県での取り組みでは、主に地域特有の社会課題を発見し、その課題を解決するための方法を議論し、学生レベルでできることに取り組んできた。今後は、その経験を異なる国や地域に適応し、生徒主体で社会課題を発見し解決する取り組みを行うまでのプロセスをできる人材育成を行いたいと考えている。私が勤務する名古屋国際高校では、生徒は海外での語学研修プログラムがあり、現地人と交流したり、高校や大学で授業や講義を現地生徒とともに受けている。今後は、それらの研修プログラムの中に、海外の社会問題を調べるアンケートやインタビュー調査を行う海外フィールドワークや、現地生徒をバディーとして協働できる社会貢献活動を導入したいと考えている。また、このような活動は、単年ではなく継続的に発展させる体制を構築する必要があると考えている。				

ふりがな 氏名	まき りょうめい	都道府県	京都府	
	牧 遼明			
所属/肩書	京都大学大学院人間・環境学研究科 修士			
私のESD活動	青色 LED 電球に見合った橙色蓄光材料の開発 ～世界最先端の研究を通して持続可能な社会づくりに貢献～			

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

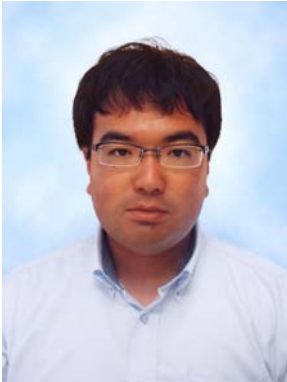
大学で行なっている研究活動に関して説明する。蓄光材料とは、日中の光をためることで消灯後も光り続ける物質で公共施設の非常時誘導灯や時計盤の文字盤などに使われている。自然の光エネルギーを人間活動に必要な電気エネルギーへと半永久的に変換し、停電等の災害時や夜間でも利用できるため新環境エネルギー材料として現在注目されている。そこで私は、**新規橙色蓄光材料の創製に取り組んでいる**。現在普及しているのは黄緑色の材料であるが、危険性の周知やカラーバリエーションの充実といった点で暖色系の蓄光材料の開発が望まれている。また近年ノーベル賞を受賞した青色LEDへの関心が高まっており、屋内照明について蛍光灯からLEDへの置き換えが進んでいる。普及品の黄緑色蓄光材料は蛍光灯が主な光源だが、本研究で取り扱う材料（カルシウムケイ酸塩）は**LED灯を効率よく蓄光できるため今後はその需要が高まることが期待される**。さらに地球上に豊富に埋蔵されている鉱物を原料（カルシウム、ケイ素、酸素）として利用することで限られた資源への配慮も行なっている。現時点で、**光を消してから暗闇の中で蓄光が持続する時間は 1 時間を超えており、一晩中（12時間）光り続ける材料の開発を最終目標に掲げている**。このように私はモノづくりの観点からESDに関わっており、本研究を通して夜間の消費電力の節約や安全な街づくりの実現に大いに貢献できる。公共性の高い材料である一方、他に同様の研究を行なっているグループは数少なく、世界最先端の学術研究に携わっていると言える。現在はジャーナル誌に載せる英語論文を執筆中で、12月には香港で開催される国際会議にて発表予定である。

○田部研究室 HP <http://www.talab.h.kyoto-u.ac.jp/index.html>

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？またESD全体（地域や日本国内、国際）の発展にどのように貢献したいと思いますか？

来年からの職場で、大阪の都市開発（街づくり）に関わることで自身のESD活動への理解を深めたいと考えている。大阪という町に根強く残る汚い、喧しい、大気環境が悪いなどのマイナスイメージを払拭し、ハードとソフト両面から定住できる街づくりを目指す。具体的には米国ポートランドをロールモデルにした、自然の緑に恵まれ地域の方々と触れ合いが育まれる街を思い描いている。さらには「水都大阪」と呼ばれる立地の良さを利用して、地元企業や商店街の方々と協力して身近に川や海の水と親しめる環境を創りたい。そのために地域にとどまらず海外の企業誘致も行ないたい。その実現には法整備の提案やさらなる市民による協力も必要となる。ESD推進の街を創るために、本会議で現状の問題点を知りさらに異なるバックグラウンドを持った方々と関わる中で広い視野を獲得したい。またESDのさらなる発展のために、大阪の街だけでなく他エリアでの活動も積極的に取り入れ、情報共有を行なっていきたい。逆に、我々が行なっている取り組みをFacebookなどのSNSや各種フォーラム等で発表することで幅広い方々に周知させたい。とりわけ、前回のユースカンファレンスのために世界各国から来た参加者や今回新たに知り合う参加者に対してアピールすることによる効果は大きいと確信している。今回の会議を通して得た知識や課題は来年からの職場でも大いに参考にする予定である。

ふりがな 氏 名	まきた たかのり 蒔田 尚典	都道府県 北海道	
所属/肩書	・十勝岳山麓ジオパーク推進協議会 事務局員 ・日本ジオパークネットワーク運営会議教育ワーキンググループリーダー		
私のESD活動	ジオパーク加盟地域の持続可能な発展に向けて、教育関係者中心に ESD の普及啓発に努めている		
活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）			
○2014 年ー2015 年、四国西予ジオパーク内にある西予市立皆田小学校が内閣府の事業である防災教育チャレンジプランに参加しました。東日本大震災や熊本地震など、災害の絶えない日本において、子どもたちへの防災教育は非常に重要なテーマです。このプログラムでは、学校、地域、行政が一体となって、避難所体験や防災町歩きなど、様々な防災教育活動を展開しました。そして 2015 年度にはその活動が認められ、「年で 2 団体しか受賞できない防災教育優秀賞」を受賞することができました。このプログラムにおいて、応募者はジオパークの担当者として行政と学校の間に入り、防災町歩きなどを主導して行い、災害の時に自分たちはどうしたらいいかについて、子供たちと考える授業を行いました。 ※応募者は、昨年度まで四国西予ジオパーク推進協議会にて活動 ○日本全国のジオパークとジオパークを目指す地域が加盟する日本ジオパークネットワーク(以下 JGN)では、2015 年から、各地のジオパークで活躍する担当者同士が、共通のテーマの下に集まって共同活動を展開するワーキンググループが誕生しました。応募者は教育に関するワーキンググループを立ち上げ、現在は 15 名規模で活動を進めています。昨年はその活動の一環で、霧島ジオパークで行われた日本ジオパーク全国大会のオプションジオツアー(於、阿蘇ジオパーク)で ESD とジオパーク教育の関わりについて紹介し、ジオパークのネットワーク内で ESD の普及を行うことができました。			
○「参考2(ワーキンググループ)」 http://www.geopark.jp/activity/education/working_group.html ○「参考3(取り組み)」 http://www.mct.ne.jp/users/kiri-geopark/6th/JGN/op-tour.pdf (5-6p)			
ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？またESD全体(地域や日本国内、国際)の発展にどのように貢献したいと思いますか？			
○2016 年 10 月活動予定: JGN では、毎年各地域で全国大会を開催しています。そこでは 10 以上の分科会が開催され様々な議論が展開されますが、私がリーダーを務める教育ワーキンググループでは「これからのジオパーク教育と ESD」というテーマで分科会を開催する予定です。昨年度、ジオパークはユネスコの正式な事業になったが、ESD の認知度は低い上、手探りなのが現状です。そのため、講演とグループワークを通じてジオパーク内の ESD の理解向上と地域での実践のきっかけづくりを行いたいと考えています。 ○2016 年 12 月活動予定: 文部科学省主催で行われるユネスコスクール全国大会に JGN で参加する予定で現在進めています。担当は私がリーダーを務める教育ワーキンググループが中心となって、ブース出展を行う予定です。ESD 実践者にジオパークを PR することでユネスコスクールとジオパークのコラボの実現を目指していきます。 ○2017 年度以降: 当地域はジオパーク認定を目指している地域でまだ活動が始まったばかりです。そのため、この様な活動を通じて、当地域の教育委員会、学校関係者と ESD 実践やユネスコスクール申請について議論する場を持ち、少しずつ無理のない程度で ESD の普及を進めていきたいと考えています。			

ふりがな 氏名	ますだ しげる	都道府県	福岡県	
	舩田 茂			
所属/肩書	福岡県立武蔵台高等学校 教諭			
私のESD活動	「天拝山登山」などの学校行事による地域と一体化した活動、日々の授業における国際理解を深める活動			

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

私が所属している福岡県立武蔵台高等学校はユネスコスクールに平成21年度から加盟しており、学校行事とESD活動を絡め様々な取り組みを行っている。その一例としては、「ユネスコスクール講演会」、「世界一大きな授業への参加」、「海外派遣研修」など特色ある行事をおこなっている。特に本校開校以来の伝統行事である「天拝山登山」は、年5回の登山を通じてクラスでの絆を深め、地域を利用するための公共心を養うだけでなく、ESDの基本的な考え方である「地域の文化財に関する学習」「生物多様性」「環境学習」を内包し、本校の代表的なESD活動となっている。

また、私の担当している公民科という教科の特性上、人権問題や環境問題、国際問題などを扱っており、学習内容におけるESD活動との関わりは深く、日々の授業の中でもESDの視点を取り入れている。

その一例として、国際社会を考える上で、宗教に関する誤解をなくし理解を深めるための授業を行った。そこで、宗教に関する知識とその宗教を信仰する実際の人々の行動・文化などをデータや事例をもとに学習して行く機会を設けた。特にイスラームについて掘り下げ、人口規模や本来のイスラーム原理主義における社会貢献活動、日本で暮らしているムスリムの人々の生活やハラール食品といったムスリムの人々の実際の部分を学ぶ取り組みを行った。

その結果、「イスラーム＝怖い、と言う風に思っていたので間違ったイメージ持たないよう、様々な問題に当たるときには気をつけて背景を考えたい」と宗教に対する理解だけでなく、「国際理解」やESD活動に大切である「問題解決能力」の高揚につながる意見を持つ生徒も見られ、その成果を感じた。

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？またESD全体（地域や日本国内、国際）の発展にどのように貢献したいと思いますか？

私は、ESD活動を深めていくために、私自身の見識を深めていく必要があると感じている。生徒達に体験させるような活動を考えることも大切である。しかし、それだけではなく、指導者である私が実際に見聞きし、生きた情報として提供することで、より実感を持って生徒にESD活動の各分野を伝えることができると考えている。現在私は、国際理解や貧困などの分野に対して考えることが多いが、今は専門性に偏ることなく、様々な分野に対して横断的に学ぶことで相互の問題の解決策を導いていくことができるように学んでいきたい。そのために、実際に注目すべきものがあれば現地に行き直接触れ、直接専門家の方の話を聞く、と言う機会を大切にしていきたい。その上で、今回のようなESD活動に関する場にも積極的に参加したいと考えている。

このような活動を経て、自身の見識を深め、確かなものに裏打ちされたESD活動を行っていききたい。そうしたESD活動を通して、ただ学ぶだけでなく生徒の心に火をつけていきたい。将来を見据え、様々な問題を自分自身のものとして考え、行動することのできる次世代の青少年を育成していくことで貢献していきたいと考えている。

また、本校生徒だけでなく、ESD活動を通して周りの教員とその観点や意義を共有し、将来的にはその成果を教育研究など実践報告として本校だけによらず、他の教員の中でも共有できるものとして残していきたい。

ふりがな 氏 名	まつおか さき 松岡 沙生	都道府県	東京都	
所属/肩書	・オルタナ S 早稲田大学高野ゼミ支局メンバー ・早稲田大学法学部			
私のESD活動	世界各地の暮らしから“Sustainability”の鍵を学び、ワクワクする形で私たちの暮らしを見つめ直す機会を提供している			

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

私は、ひとと自然の関係について学び考えている。大学一年生時、特定非営利法人 ECOPLUS 代表且つ早稲田大学の高野孝子教授のもとで“Sustainability “について授業で学び、ヤップ島プログラム 2014に参加した。2年生の時から日本での野外環境教育のプログラムにもスタッフとして携わってきた。今年 2 月にはマオリ族の出身で、少数民族の健康問題への取り組みの必要性を訴え、その地域の、環境に根差した知恵や伝統的な人々の役割に配慮した学びの必要性について考えている方からそのコアにある精神を学びに、実際にニュージーランドでフィールドワークをしてきた。現在は、高野教授の授業を通して特に環境教育についてアカデミックに且つ新潟県榑窪集落へのフィールドワークをして考えを深めつつ、この夏には、授業の一貫としてインド北東部のナガラランド州へいき、少数民族アオ族で「Sustainable Development for Nagaland（ナガラランドの持続可能な開発）の代表で、環境に関する弁護士資格を持ち、山岳地での農業、資源管理、人材開発など少数民族がクラス地域社会を中心に幅広い教育活動をしている方が活動している場所へ訪れ、日本と似た予定だ。そして、新潟県榑窪集落のお米でおにぎりをつくり大学近くで売り、それを買った人たち 75 人と田んぼオーナーになり、その人達と田植えや草取りに行き、「おにぎりを買う」というワンアクションから全く興味を持っていなかった人たちに伝わるような企画や、オルタナ S というメディアでの取材や執筆を通してライフスタイルについて自分自身も考えながら発信している。

○「オルタナ S」(おにぎり企画) <http://alternas.jp/joy/date/63662>

ONPO 法人 ECOPLUS <http://www.ecoplus.jp>

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？またESD全体（地域や日本国内、国際）の発展にどのように貢献したいと思いますか？

大学でPBEについて学び考えを深めているが、地域とグローバルのつながりをどのようにしていくべきかについても今後私は考えていきたいと思っている。また、さらにそれをどのように政策レベルに引き上げていくことができるのかについて考えていきたい。そして、2017 年にはローリー・インターナショナルなどに応募して、自分の成長とともに国際的にも議論しあえる仲間たちを作っていきたいと思っている。

大学卒業後、いずれは大学院へ進学して環境と開発、そして 1 つのアプローチとしての野外教育について体験し学んだことをよち多くの人に伝えられるように学びを深め、ESD がより目標に近づけるようにもちろん日本を含め国際的に携わりたいと思っている。そして、ゆくゆくは地球規模の視点を持ちつつ、世界に発信しながら地元広島でも何かしら ESD に関する事業もしくは活動に携わりたいと思っている。また、学んできたことに相反しないようなサステナブルなライフスタイルを私自身からつくっていきたく思っている。

ふりがな 氏 名	もりもと あさこ 森本 朝子	都道府県	神奈川県	
所属/肩書	横浜市立幸ヶ谷小学校 教諭 (ESD推進委員・重点研究推進委員)			
私のESD活動	自分、友達、社会の幸せをつくる子どもという学校教育目標に向かい多くの人とのつながりを大切した活動です			
活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）				
学級担任として5年間、子どもたちと共にクラス総合でESDの活動を行ってきた。 ○学校図書館を活性化させるために、捨てられる予定であった廃棄本を読める状態まできれいに直し、これからも読み続けていくことができるようにした。リサイクル本として本に新しい命を宿らせ、また新しい読み手に本が渡るようになった。 ○地域の高齢者と交流をもち、昔の町のことについて話を聞いたり、これから自分たちの親、自分自身が高齢者になった時に住みやすい町にするためにはどのようにすればよいのかを考えたりした。高齢者のことを考えて、話し方に気を付けたり、遊びを考えたりする姿が見られた。また、地域の高齢者と関わることで、段差が多いことやバリアフリーの所が少ないなどいつもとは違う着眼点で町を見ることができ、自分たちが住んでいる町に改めて関心をもつようになった。子どもたちが高齢者に対しての考えが変わり、みんなが共存できる町の実現に向けて、地域の方に高齢者について理解してもらうための発表等を行い発信した。 ○1年生の子どもたちが生活科のお手伝い単元で、家庭での仕事を手伝った。活動の中で、もっとできる仕事を増やし、家族の仕事を減らしたいという思いをもった。また、友達に自分のことを発表したり、アドバイスを伝え合ったりすることで、自分にできることが増え自己有用感をもつことができた。自分たちが仕事をすると、笑顔で家族が喜んでくれるという周りの変化も感じることもできた。そして、「大人になったら、今やっていることを当たり前にしなないといけない。そのためにもお家の人の助けも借りながら、続けていきたい。」という自立に向けた思いをもった。				
ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？またESD全体（地域や日本国内、国際）の発展にどのように貢献したいと思いますか？ 今年度は、クラス総合で「和食」をテーマに活動しています。近年、若者の和食離れが進んでいます。それに危機感をもった子どもたちは、昨年度から和食や魚食について学んできました。今年度は、自分たちがもっと和食について知るために、各地域の和食について学ぼうと考えています。韓国の招へいプログラムで知り合った先生方に連絡を取り、地域に伝わる伝統的な和食をテレビ電話等でお互いに伝え合う計画を立てています。そして、教えてもらった地域の料理や自分の保護者の地元の料理を実際に作ります。その活動を通して、日本という一つの国の中に様々な地域の伝統料理があり、それを引き継いでいこうという地域の方の思いを知るとともに、その文化を大切にしていこうという思いをもつことができます。そして、学校、地域、社会に和食の素晴らしさを伝え、最終的には、日本の大切な食文化を海外に発信したいと考えています。 活動を通して、積極的に様々な地域や国と繋がり、ESDの輪を広げていきたいです。人々の間の繋がりを作ることが、持続可能な社会を構築する道の一になると考えます。一度繋がった繋がりを継続し、関わり合うことが大切だと思います。また、学校間に限らず、岡山に集まる人々が垣根を越えて、持続可能な社会の実現を目指す学びのために、関わり、語り合うことが規模は小さいながらもESD全体の発展に貢献することになるのではないかと考えます。				

ふりがな 氏 名	やました たつゆき	都道府県	京都府
	山下 達之		
所属/肩書	・ 京都大学環境サークル えこみっと ・ 京都大学フェアトレード推進サークル まなびやハチドリ		
私のESD活動	京都というフィールドにおける、市民・企業・行政を巻き込んだ環境・フェアトレードの教育活動		



活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

私が属する環境サークルえこみっとは主な活動が2つあり、その一つが、西日本最大の学園祭である京都大学11月祭における環境負荷の低減と環境意識の啓発です。具体的には10t以上生じるごみの分別・回収システムの構築や環境負荷の少ないエコトレイ使用模擬店の運営などを通して模擬店運営者や来場者の環境意識の啓発を図っています。もう一つの活動であるリサイクル市では、卒業生の転居にあたって不要になった家具を新入生に譲り渡す仲立ちをすることで、物を大切に使い続ける心を実物を通して伝えています。このように直接的でないながらも、ごみや家電といった「形のある」ものを通して、市民生活レベルにまで浸透してきた環境問題を再認識してもらう機会づくりをしています。

また、フェアトレード推進サークルまなびやハチドリでは、「騙されない消費者」から「賢い消費者」へと消費者教育の方針転換をねらう京都市の依頼により、未就学児とその母親をターゲットに、フェアトレード製品を使ったミサンガ作りのワークショップを行いました。またNGOのFAIR+のバックアップを受けて、高校生のための国際協力のイベントであるワン・ワールド・フェスティバル for youth へのブース出展を行い、高校生にフェアトレードが果たすべき役割について考えてもらう機会を提供する予定です。このようにこの団体の活動はあくまでグラウンドレベルに徹し、フェアトレードという難解な概念を、一つのミサンガや一杯のコーヒーに触れることで知ってもらうという発信の仕方を試みており、一方的な知識や価値観のトップダウンに留まらない能動的に感じとってもらう機会づくりを画策しています。

○「京都大学環境サークル えこみっと」 <http://kyoto-univ.eco.to/ecomit/>

○「京都大学フェアトレード推進サークル まなびやハチドリ」 <https://m.facebook.com/KUhachidori>

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？またESD全体（地域や日本国内、国際）の発展にどのように貢献したいと思いますか？

私が属する団体がメインフィールドとする京都市は寺社や文化財の多さ、所謂「京しぐさ」などから保守的、排他的であると想起されがちです。しかし、東京遷都以降、都市レベルの相対的な低下を懸念し続け、日本初の水力発電所建設や新幹線「のぞみ」の全列車停車を実現するなど、実は日本中のどの町よりも進取の気風と行動力を兼ね備えた町だと言えます。また「学生の町」と呼ばれるように、市民の1割を大学生が占め、学生団体の活動に寛容な地盤があります。さらに、門川京都市長が推進するソーシャルイノベーション構想により様々な活動が進行していますが、これらの活動はESDと通底するものがあるのではないかと思います。ですので、ESD活動を深化させるために、この京都という絶好のフィールドで行政や市民をも巻き込んだ活動を展開していければと考えています。

ふりがな 氏 名	ゆあさ りな 湯浅 梨奈	都道府県	広島県	
所属/肩書	広島大学総合科学部自然環境科学科			
私のESD活動	仙沼市唐桑町の街づくり・東広島市福富町の町おこし・呉市三角島にて地域活性化活動のためのビジネス化			
活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）				
私はこれまで、国際、自然環境、平和、地域活性化、イノベーション、の5つの軸で活動を行ってきた。 例えば国際については、海外の高校、大学生が広島に訪れた際に、ともに平和や人権について考え、それぞれの意見を交換し、ディスカッションを行ってきた。お互いが交流して学んだことを国、地域へ持ち帰り、学内や学外に報告している。大学では町おこし団体に所属し、地元の小学生とともにその地域で古くから伝えられている無農薬の稲栽培、合鴨農法を学び、地域の子どもたちと住人、そして学生との間の絆の繋ぎ役として働いている。まちづくりにおいては、他にも、文部科学省主催のEDGEプログラムに参加させていただき、そのイノベーションを目的としたプログラムの一環として、人口の少ない島での地域活性化を目指す勉強やフィールドワーク、ワークショップを社会人とともにやっている。ほかにも、大震災で被災した宮城県気仙沼市を主に東北に訪れ、防災の必要性について学び、広島に持ち帰って学内・学外へ報告している。現在は被災地での短期間の生活を生かして、新たな防災のあり方について考えている最中である。				
○「学生町おこし団体ふくふく Facebook」 https://www.facebook.com/hukuhukuhukuhuku/?fref=ts ○「唐桑丸 Facebook」 https://www.facebook.com/karakuwa/?fref=ts				
ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？またESD全体（地域や日本国内、国際）の発展にどのように貢献したいと思いますか？				
まずは、ESD 日本ユース・コンファランスで学んだ知識も参考に、自分自身が現在取り組んでいる活動を活発化させたい。同じ活動のメンバーに自分自身が得た経験談や情報をシェアし、国際、自然環境、平和、地域活性化、イノベーションそれぞれの分野で、いま解決しようとしている社会問題を解決に近づけたい。少しずつ人々の輪と繋がりを広めるために、ESD 日本ユース・コンファランスで出会った人と私の周りの人たちを繋げ、一緒に、似たような問題に向き合い、話し合い、問題解決に取り組もうと考えている。 今回の ESD 日本ユース・コンファランスに参加することをきっかけに、国内及び国外での国際会議等に参加する。もし自分自身が若者のリーダーのひとりとして活動出来るのであれば、リーダーたちだけでなく幅広い人々の意見を実際に聞き、交流し、その人々たちと一緒に生活をし、現場の事情を頭だけでなく身体で理解する。そして地元民たちを会議に巻き込み、それぞれの地域の住民が主体となった活動を行う。				

ふりがな 氏 名	よしおか ゆうじ 吉岡 雄志	都道府県	岡山県	
所属/肩書	岡山県立矢掛高等学校 教諭 (軟式野球部監督、ESD推進係)			
私のESD活動	地域の教育力を活かし、地域に支えられ、地域を支えるための学校に近づくためのとりくみ			

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

①2014年の「ユネスコスクール世界大会高校生フォーラム」の委員として世界会議の運営にむけた ESD セミナーの運営に関わった。また、2012年度に行われたユネスコスクール日中韓フォーラムや2013年度のUNESCOアジア太平洋地域高校生ESDフォーラムの運営にも関わった。

②地域と高等学校が密接に結びつきあう方法を考え、実践を行ってきた。本校に赴任し、環境教育に関わる授業を担当し、教材の開発や小学校での出前授業を行った。本校はユネスコスクールに認定され、矢掛町と協定を結び、毎週決まった事業所(教育施設や福祉施設など)で1年間の実習を行う学校設定科目「やかげ学」を取り入れている。官民学が一体となって町内唯一の高校である本校の生徒を教育していく仕組みの改善を行っている。生徒は教員以外の大人と接する機会が増え、有効なキャリア教育の機会である捉えている。さらに、中山間地域に存在する持続可能な社会の実現を阻害する要因を自分のこととしてとらえるきっかけともなっており、進路意識や学習意識の向上に確かな効果がみられる。また、授業以外では、顧問として軟式野球部の「おにぎりプロジェクト」を立ち上げた。このプロジェクトは、地域の方からお米をいただき、毎日の練習後に生徒がおにぎりを食べるというもので、SNSやホームページ、最寄りの矢掛駅の空きスペースを活用し、野球部の活動や試合結果の報告とともに、お米の提供を呼びかけている。その結果、地域の方が学校へ関心をもつていただくことにつながり、地元企業の支援も受けることができるようになった。地域のための学校、学校のための地域という良好な関係を築くための一歩となっている。

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？またESD全体(地域や日本国内、国際)の発展にどのように貢献したいと思いますか？

本校で行っている「白石島ESDプログラム」、「徳島県上勝町視察」、「真庭市バイオマス研修」、「YAKO アワード」や地域で行われている「YKG60」の活動をよりよいものに改善していきたい。また、その活動を他の地域でも実践できるようなものに昇華させていきたい。さらに、本校で行っているESD活動に他校の生徒や地域の方、大学生や大学の先生にも関わっていただき、広い学びの場としていきたい。さらに、高知大学や静岡大学をはじめとして近年、地域系の学部が整備され地域コミュニティを守ることや地域産業の創出、地域文化の継承の手法を学ぶ機会が多く提供されている。進路指導を通じて地域活性化のリーダーを作り出していくことが、中山間地域の高校に勤める教員の責務だと考えており、大学選びや震度指導に役立てたいと思っている。大学で中山間地域型の問題や都市型の問題を深く学習した学生が地域に帰ってくる流れを作ることができれば、人材の流出に苦しむ中山間地域の持続発展につながると考えている。

ふりがな 氏 名	よしなか ななこ 好中 奈々子	都道府県	神奈川県
所属/肩書	・ 慶應ユネスコクラブ代表 ・ 渋谷ユネスコクラブ会員		
私のESD活動	世界遺産を題材に歴史・文化、更には環境・防災・教育 まで過去から未来への繋がりを学ぶ		



活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

私は慶應義塾大学ユネスコクラブに所属し、スタディツアーを通して世界遺産を訪ねることを中心に活動しています。その中で「様々な形で世界遺産に携わる方々と出会い、お話を聞くこと」ということを特に大事にしてきました。このスタディツアーでの交流を始める前、世界遺産を学ぶことは「歴史や文化、宗教など過去を学ぶことがメインだ」と考えていました。しかし例えば世界遺産運動に携わってこられた方のお話から遺産と人々がどのようにともに歩んできたかを考えたり、遺産の地理調査をしている人からその遺産のまわりの環境変化や震災の影響などを聞いて、環境問題や防災についても考えるようになり、世界遺産の学びは決して過去のものではなく、過去と未来をつなぐ学びであり、様々な分野の人間を結びつける、まさしくESDの考え方にふさわしい学びだと今では思うようになりました。スタディツアーは毎年日本、世界と様々なところを訪れます。毎年継続している活動としては、鎌倉の世界遺産登録についての勉強です。鎌倉の地域の方々にご協力いただいて、世界遺産になるまでの過程を見させていただきながら、世界遺産の意義や地域の取り組みの在り方について研究させていただいています。

今はスタディツアーを通して学ばせていただくことが多く、自分たちで学んだことを社会へ発信するということは今後の課題と言えますが、私たちが訪れることで地元の方々同士で新しく繋がるということも多々あります。これが成果と言ってよいかわかりませんが、私たちがユネスコを通して様々な人々を結ぶという役割を果たしているのかなと考えています。

○「Twitter アカウント」 @keio_unescoclub

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？またESD全体（地域や日本国内、国際）の発展にどのように貢献したいと思いますか？

今後もスタディツアーがメインの活動になりますが、その中で慶應ユネスコが自分たちが学ばせていただきつつも地域を結ぶコーディネーター的な役割、また地方と都市を結ぶようなきっかけづくりになるような存在になりたいと考えています。例えば、現在長野ユネスコ協会とのコラボ企画などを企画しています。

また私は将来、ESDの普及に取り組みたいと思っています。その方法について、最も効果的な方法を現在大学で考えていますが、現在考えている方法としてはメディアでの普及（現在ユネスコスクールでのESD普及は定着しつつあると考えるが、ユネスコ以外の一般の方々への普及はいまいちである）や、教材の開発です。また日本でのESD普及の取り組みを例に、大学で学んだ地域の特性などの知識を活かしてその土地の人々の考え方にあった形で、国外のESD普及にも貢献したいと考えています。

ふりがな 氏 名	りゅう いいてん	都道府県	東京都	
	劉 亦天			
所属/肩書	教育コーディネーター（フリーランス）			
私のESD活動	グローバル教育を通じて、個人と社会を豊かにする学びの場を提供する			

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

小中学生を対象に、「21 世紀型スキル」と「グローバルコンピテンシー」を育むプロジェクト型学習の場を企画・運営している。プロジェクト型学習は問題解決型と質問探求型の二つに分類することができる。問題解決型のプロジェクトでは、学年混合の子どもたちがチームとなって、貧困や過疎などの社会問題を解決するためのアイデアを考え出す。一方で、質問探求型のプロジェクトでは、子どもたちが「音声合成はどのように行われるか」「なぜ IS はテロを起こすのか」といった自分の興味から生まれた質問をテーマとして設定し、その答えを探索していく。これらのプロジェクトを通じて、子どもたちが未来の社会で活躍するために必要な創造性、コラボレーション、コミュニケーション、試行錯誤する力などを身につけることが目的である。

この活動を始める前、私は教育の民間企業で幼児から高校生までと向き合っており、日々の教育現場の中で「子どもたちが未来に必要な学力を育む機会が不足しているのではないか」という問題意識を持っていた。例えば、他者と協働して新しい価値を生み出す力。現在の教育システムでは、受験合格に向けて一人で努力する個人作業に重点が置かれており、子どもたちが異質な他者と課題を設定し、解決方法を考えて実践する力の育成が不十分である可能性が高い。そのため、この問題を解決するために、地域の保護者や学習塾と連携してプロジェクト型学習の場を提供している。

次の世代に必要な教育機会を行政だけに委ねるのではなく、地域の方々が草の根運動のように自らの手で創り出している点がこの活動の革新性である。

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？またESD全体（地域や日本国内、国際）の発展にどのように貢献したいと思いますか？

ESDを二つの活動で展開する予定である。

① 日本と外国の子どもたちが一緒に学ぶプロジェクト型グローバル教育事業を通じてESDの活動を広げていきたい。この事業では、同じ地域に住む日本と外国の子どもたちがチームを結成し、二ヶ月間にわたって異文化を探究したり、地域の問題解決に挑戦したりする。この協働経験を通して、子どもたちは小学生の頃から世界で活躍するために必要なスキルとマインドを学ぶことができる。現時点においてグローバルに活躍する力を育むためには、留学が最も効果的な手段となっているが、貧困層や中学生以下の子どもたちの参加は難しい状態にあると言える。本事業が成功すれば、子どもたちが日本にいながら世界について学ぶことができ、持続可能な世界に貢献できる人材をより多く育てることができる。

② 中国でESDを実践するリーダーになりたい。昨年、四ヶ月かけて故郷の中国を旅した時、若者の関心が社会よりも自分自身に向けられているケースに多く直面した。若い世代の関心事は自分がどう経済的に成功するかということに占められており、社会と他者の豊かさは二の次になっている傾向がある。中国が少子高齢化と成熟社会の時代を迎えれば、国家の豊かさの担い手はトップダウン型の政府主導からボトムアップ型の民間イノベーションに移っていくと予想される。そのため、社会全体の持続可能性に関心を持つリーダーに自らなり、その輪を広げていきたい。



〒102-0093 東京都千代田区平河町 1-4-5 平和第 1 ビル
公益財団法人 五井平和財団 「ESD 日本コース・コンファレンス」事務局
TEL: 03-3265-2071